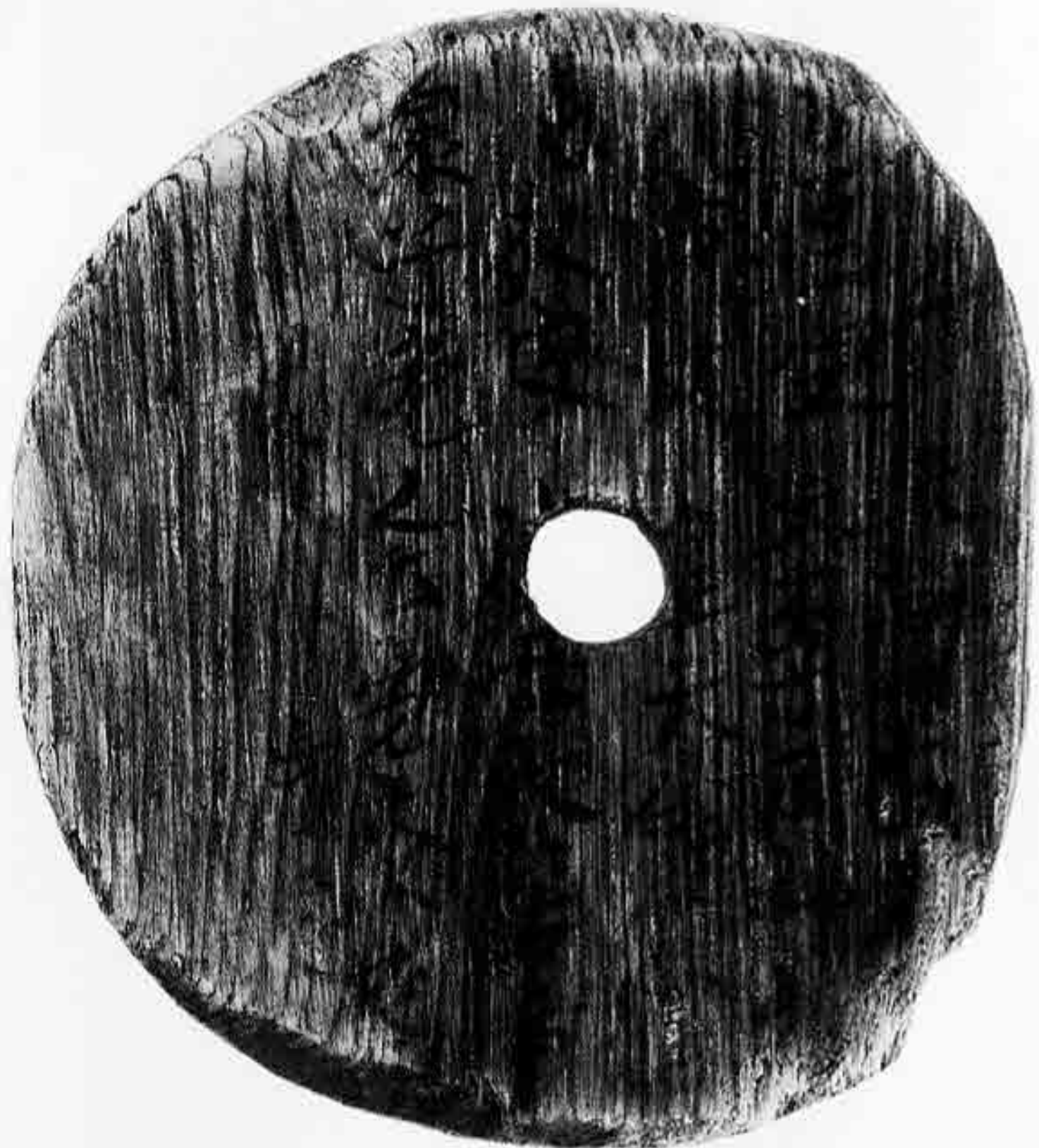
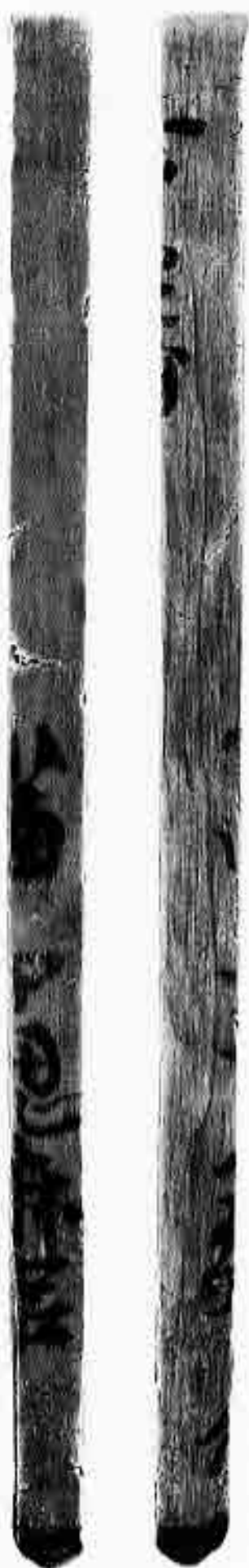


二〇〇三年十一月

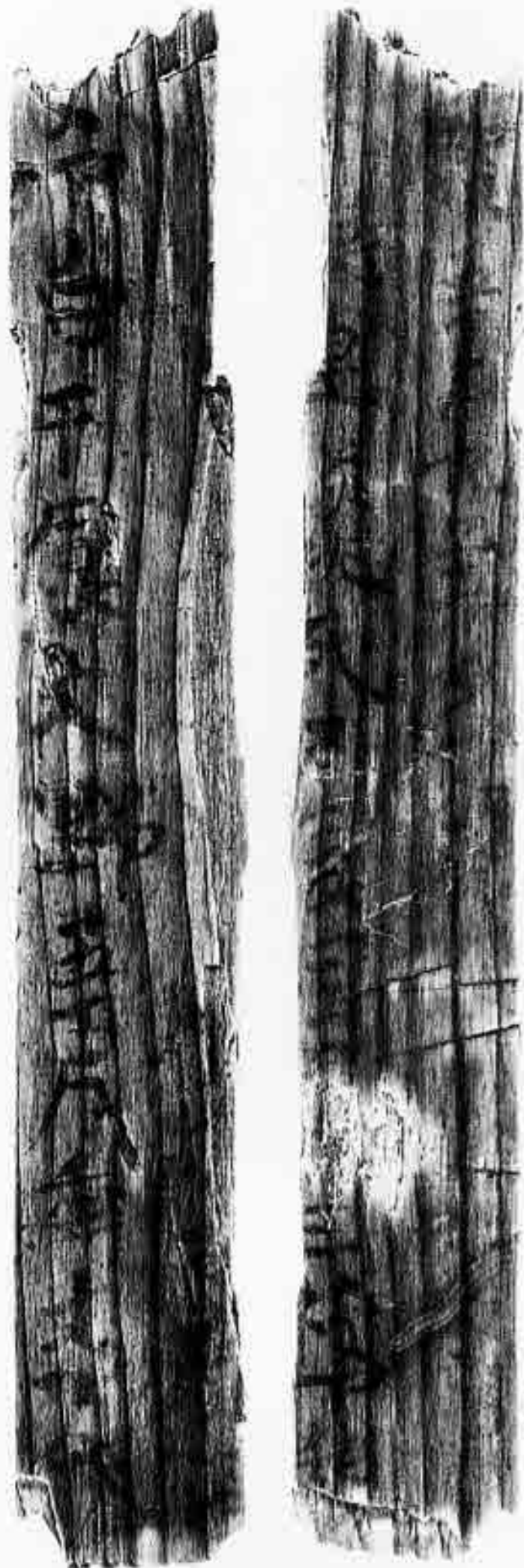
飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(七)

奈良文化財研究所





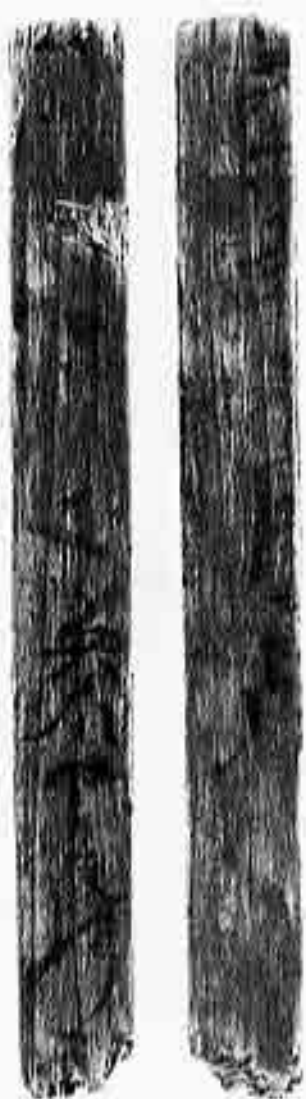
46



43



16



101



44



119

(3 : 4)



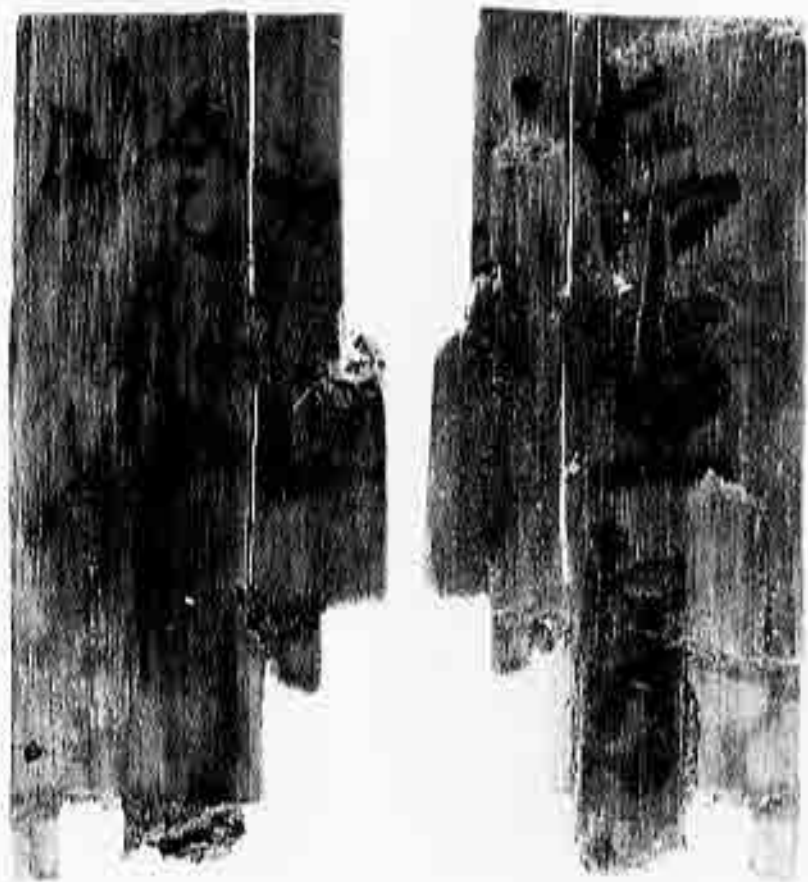
76



1



77



(3 : 4)

144



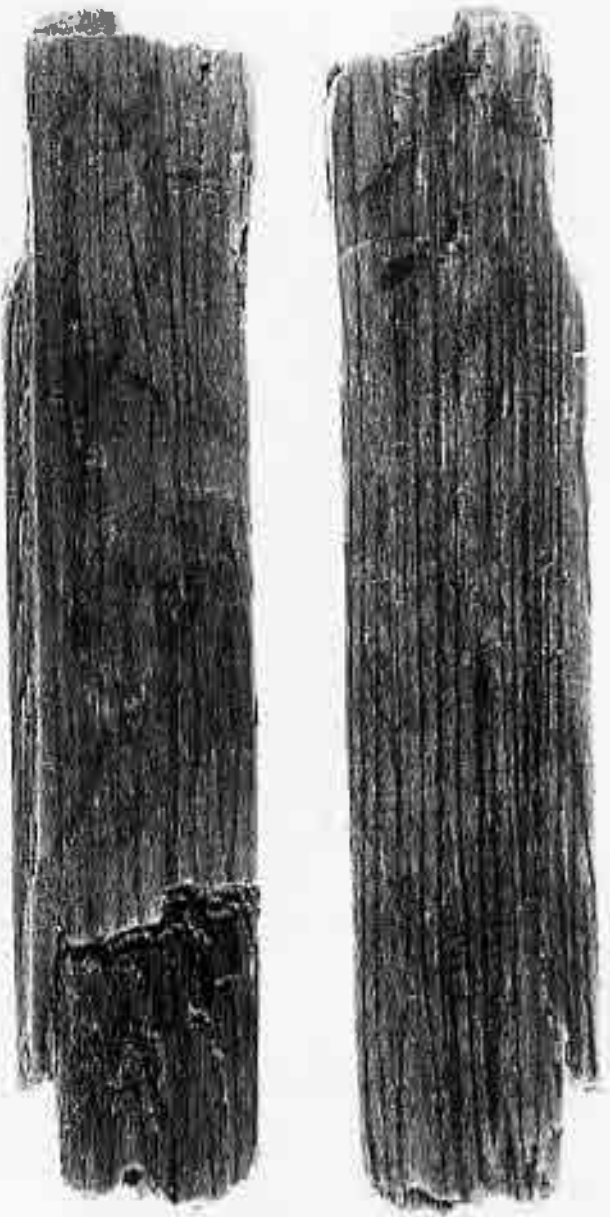
146



17



118



32



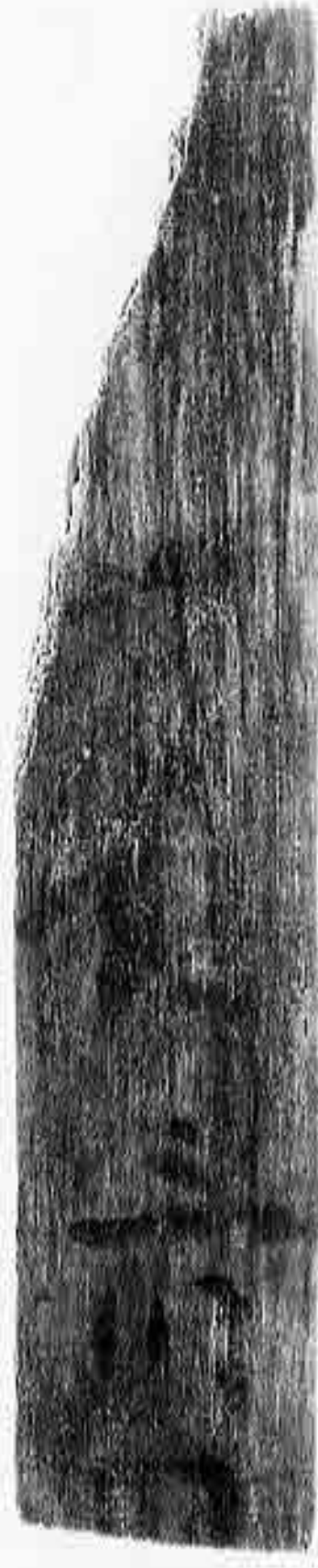
33



90



18



158



19



114



(3 : 4)



42



98



47



122  
(3 : 4)



6



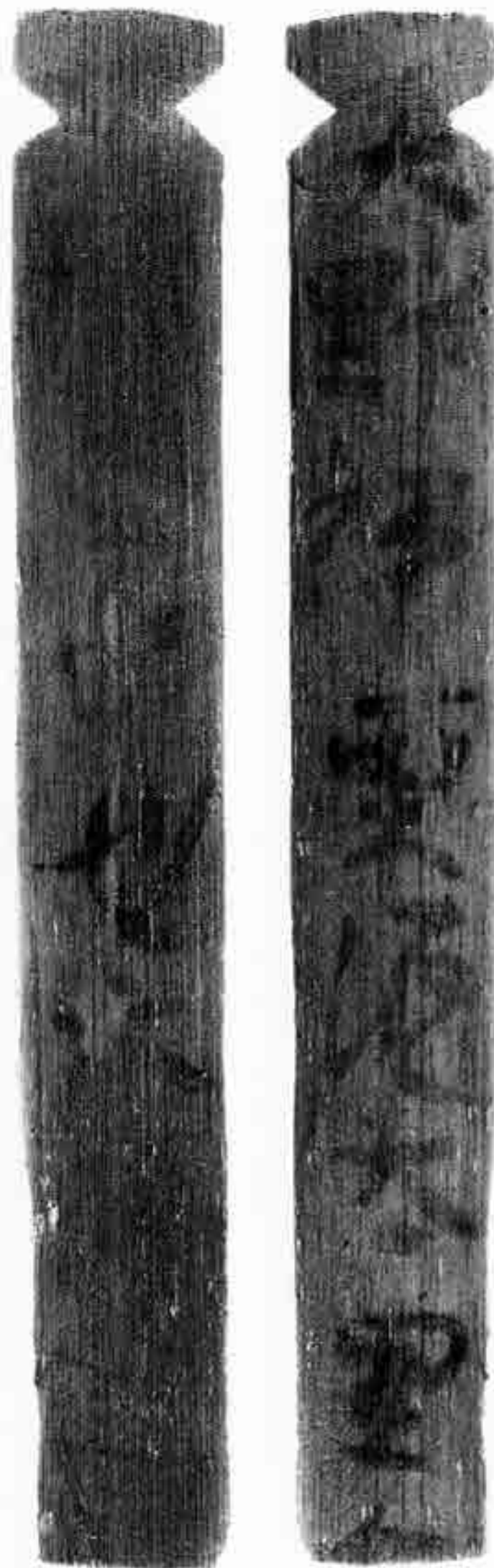
72



34



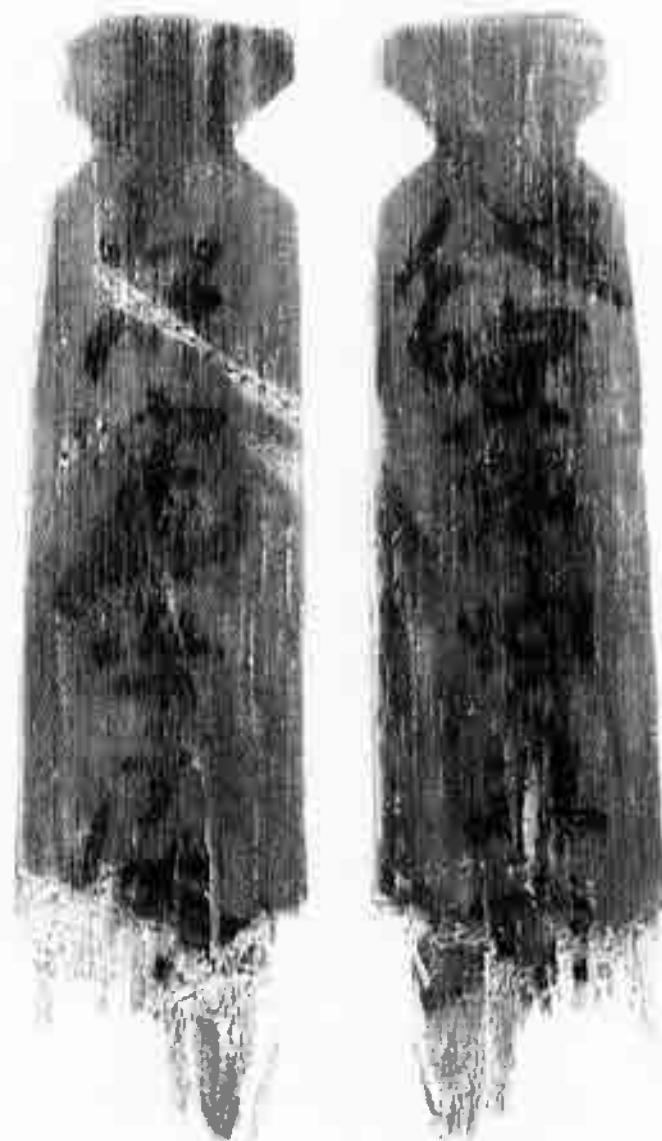
94



81



127

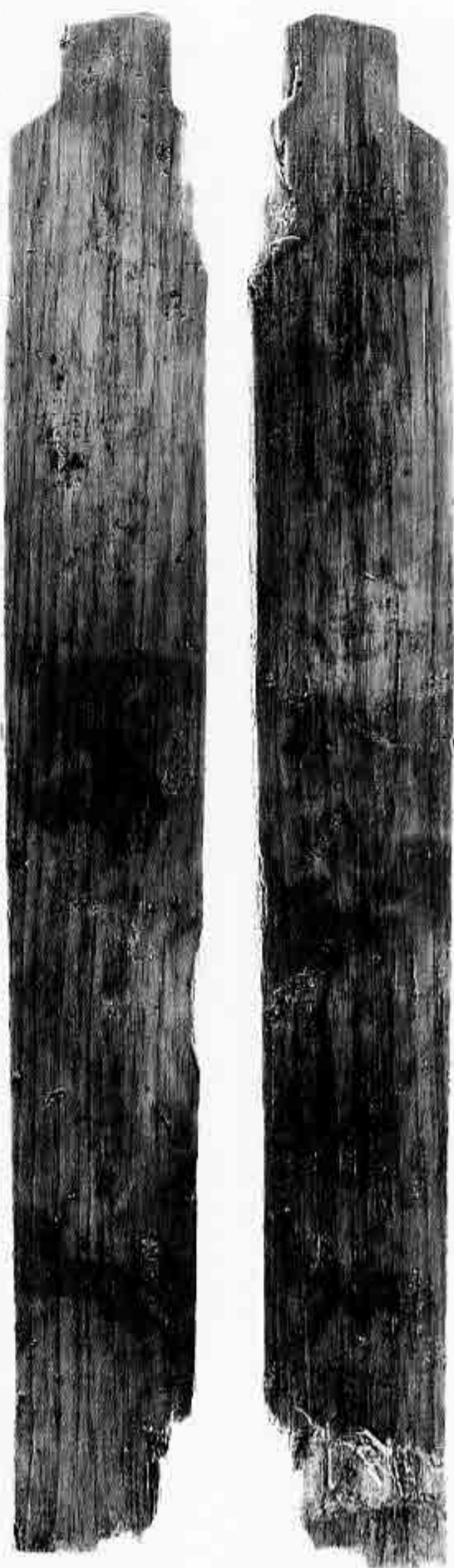


10

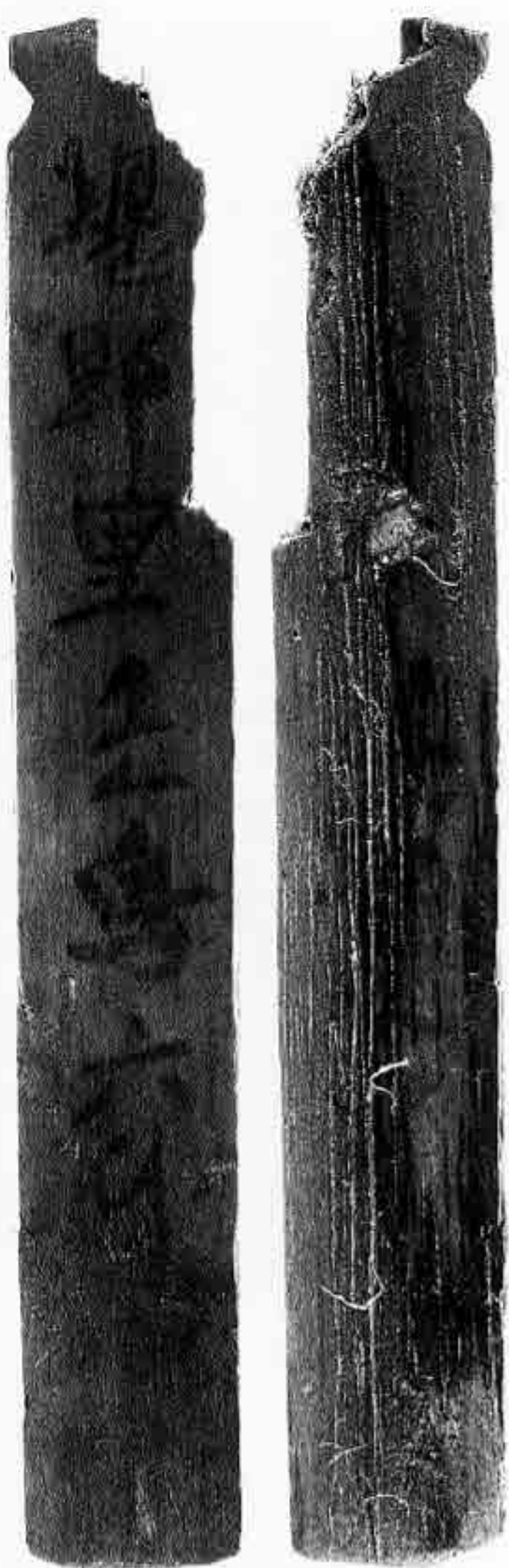


106

(3 : 4)



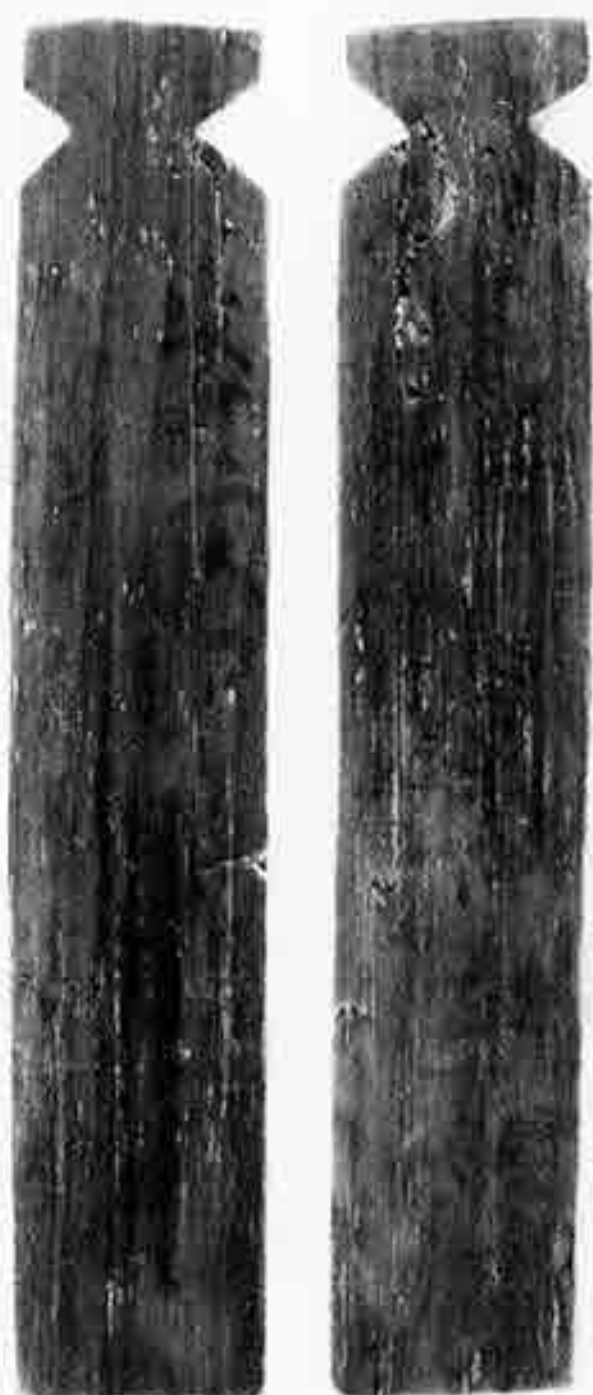
49



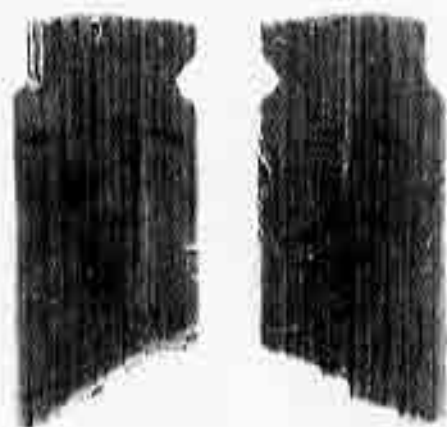
113



125

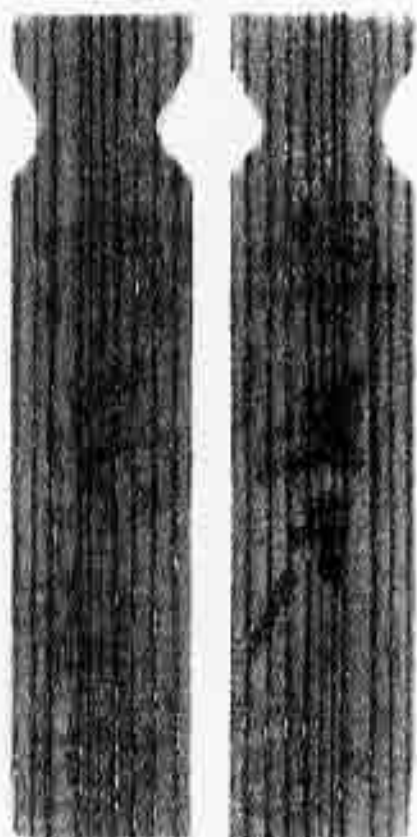


79



83

(3 : 4)

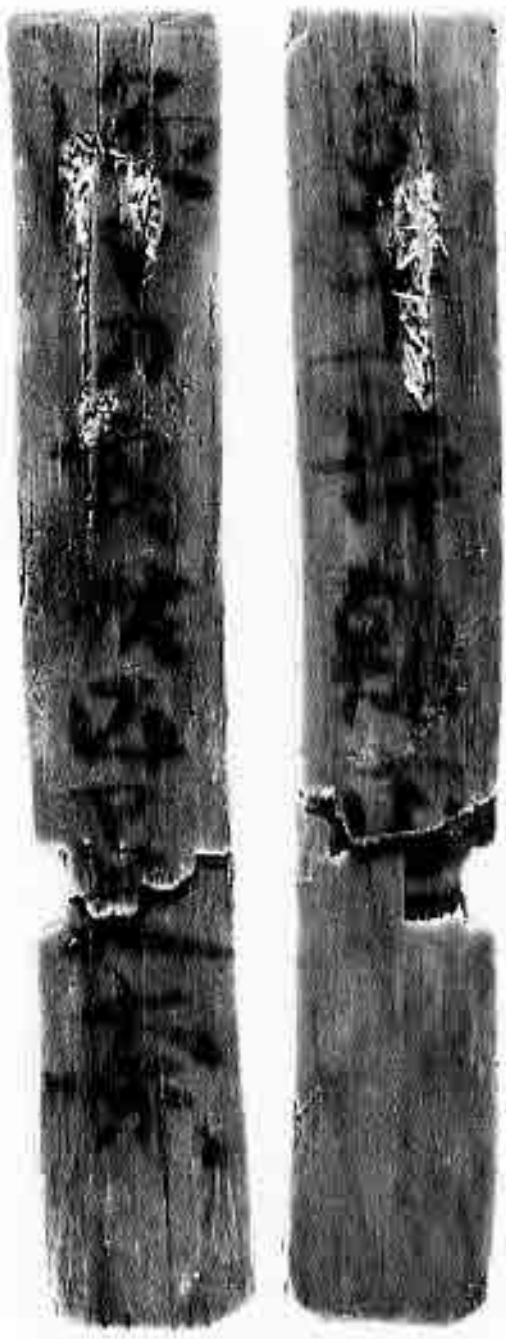


135



92





52



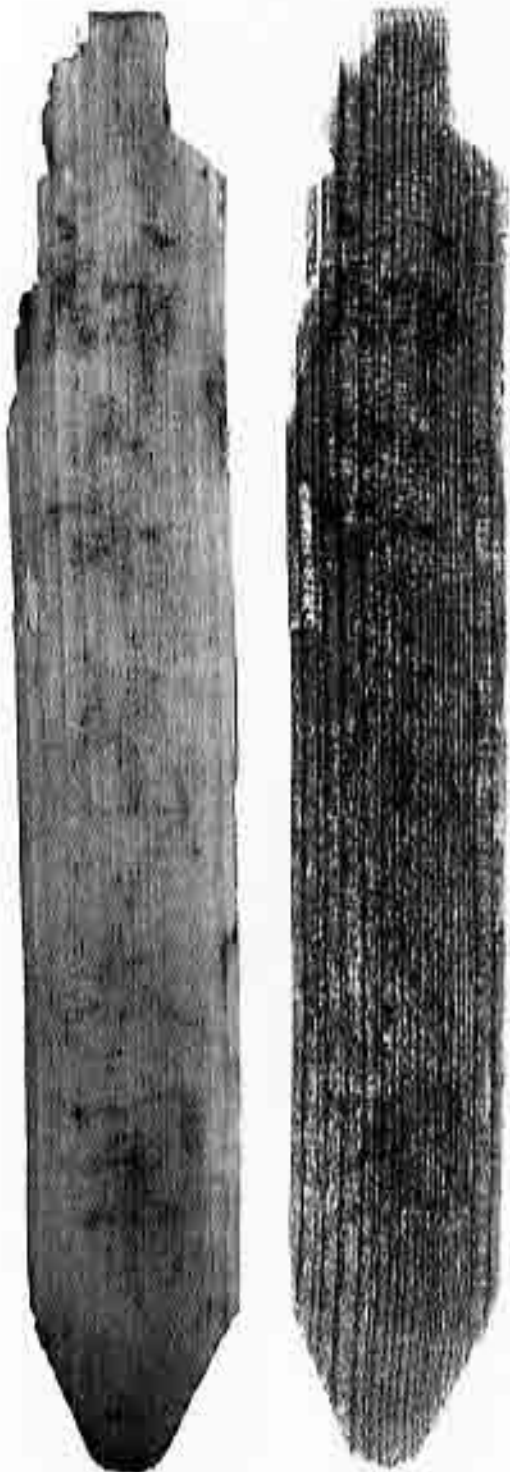
96



128

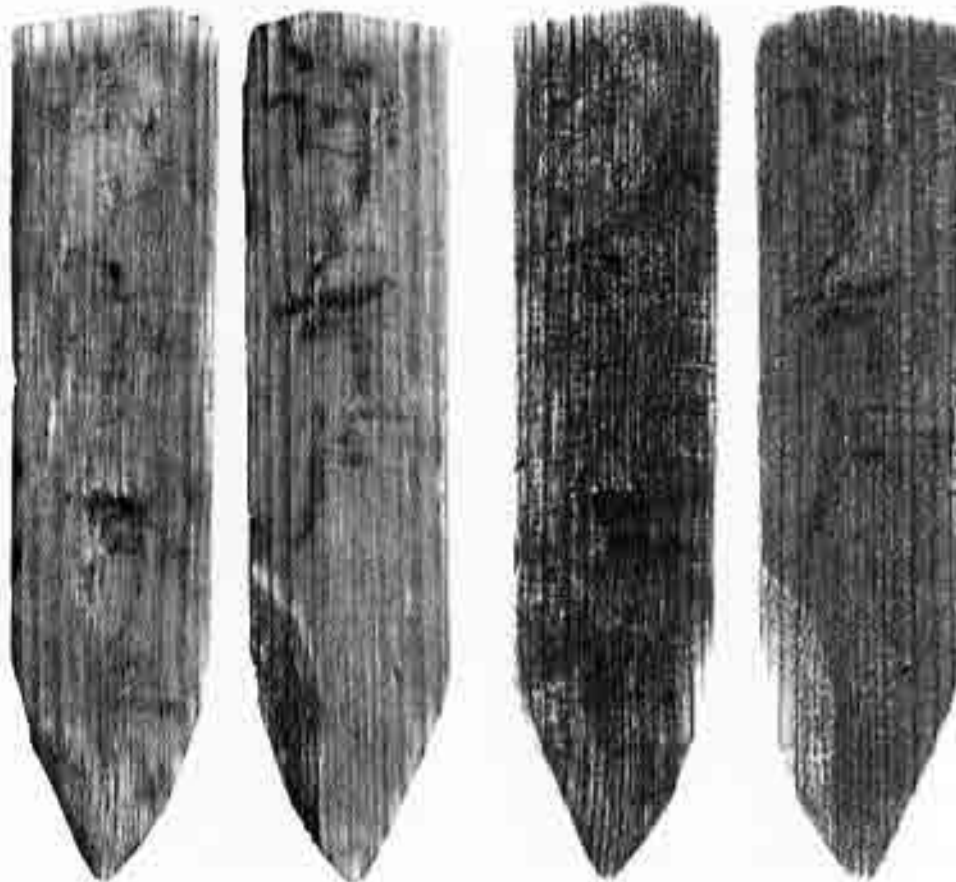


145



132(赤外)

132



143(赤外)

143



107

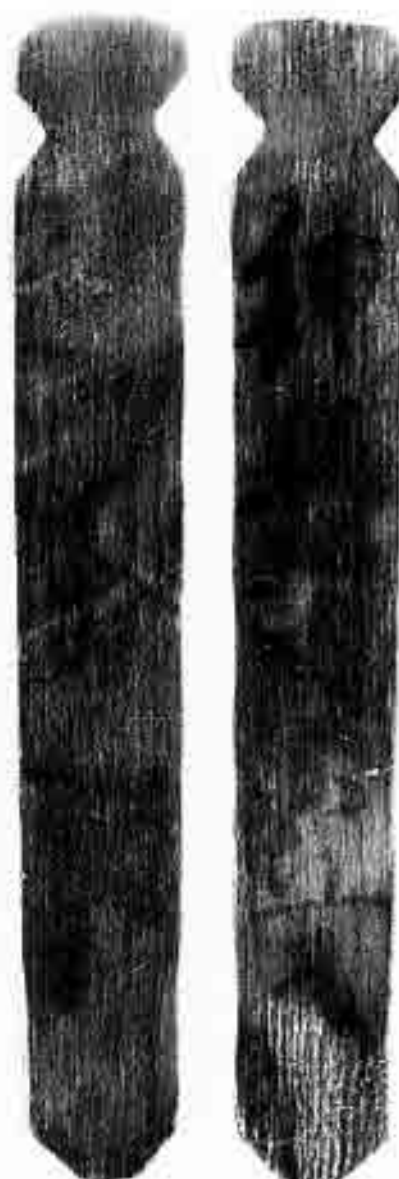
(3:4)



73



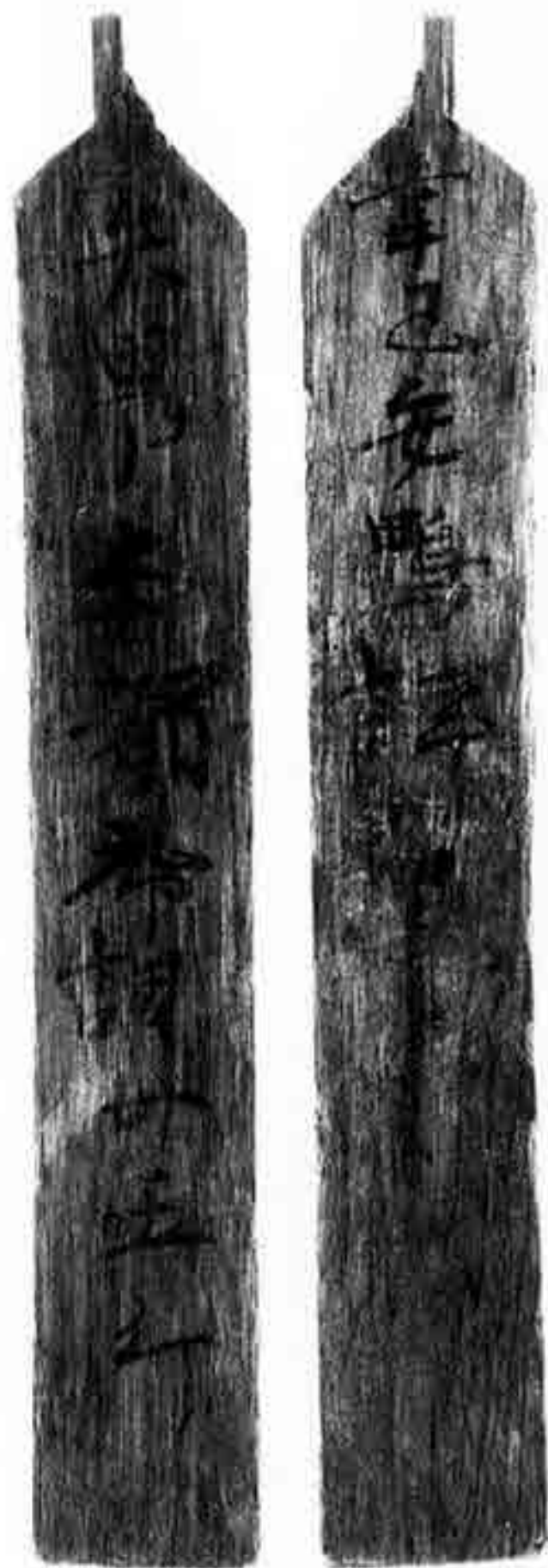
95



130



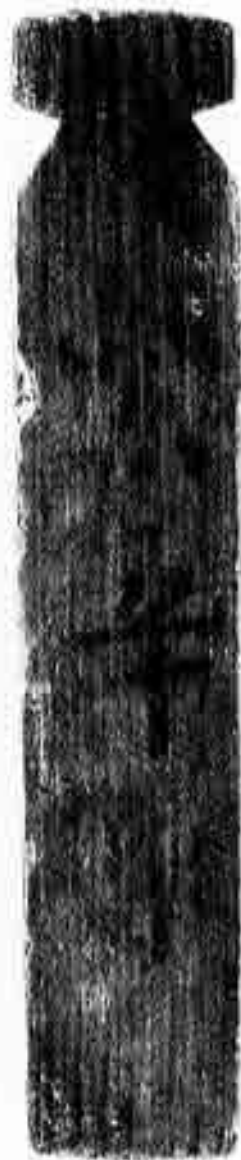
133



124



131



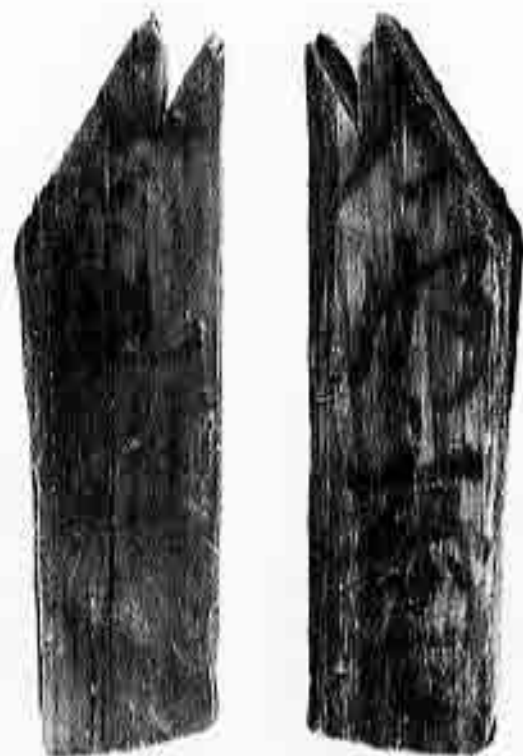
4



55



58



59



137



36(赤外)

36



37



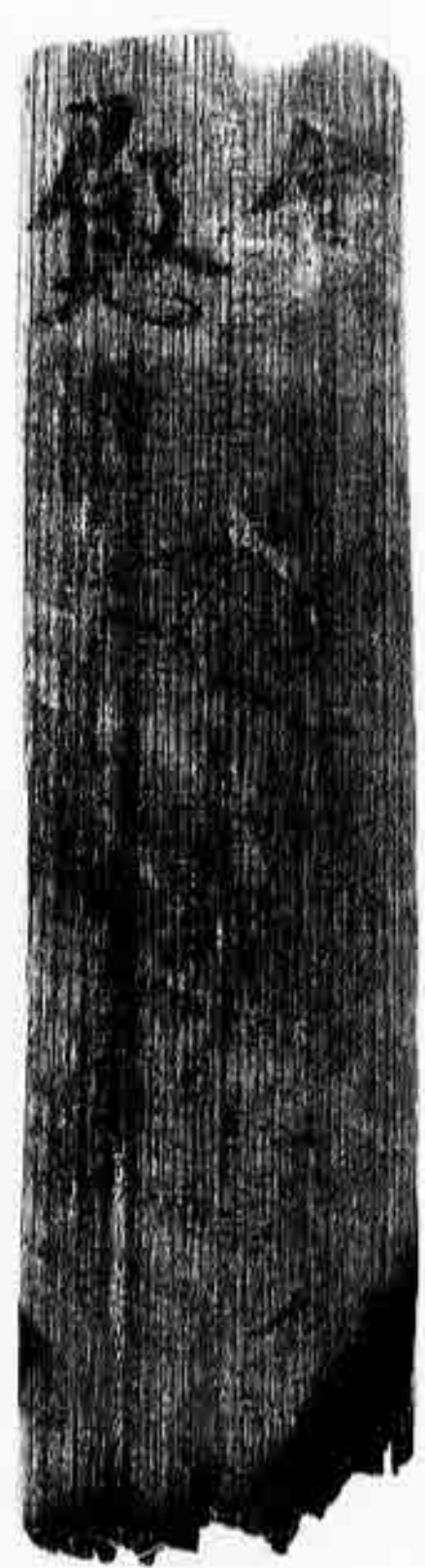
24



26



(3 : 4)



25



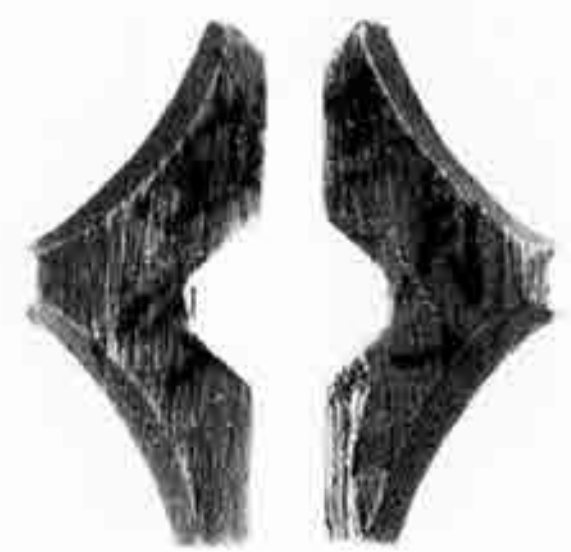
115



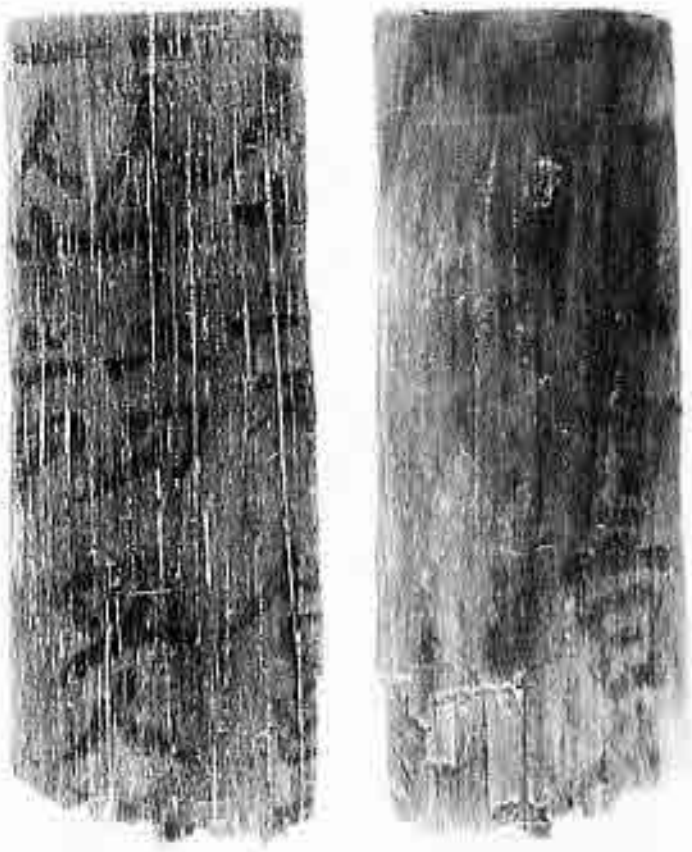
39



40



41



147



75



139



89



156



117



175



176



182(赤外)



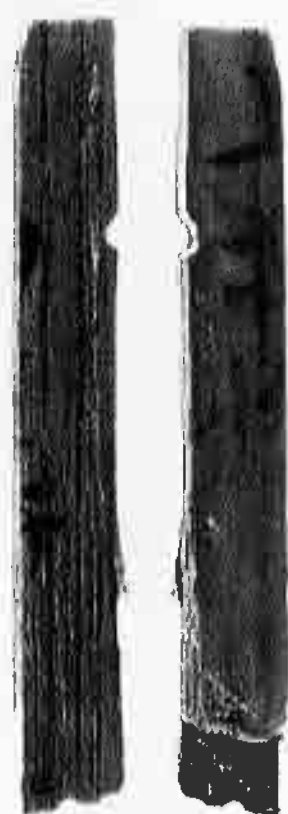
182



167



375



183



168



201



225



277



238



237



306



279



283



262



222



209



239



328



240



282



241



211



307



214



245



200

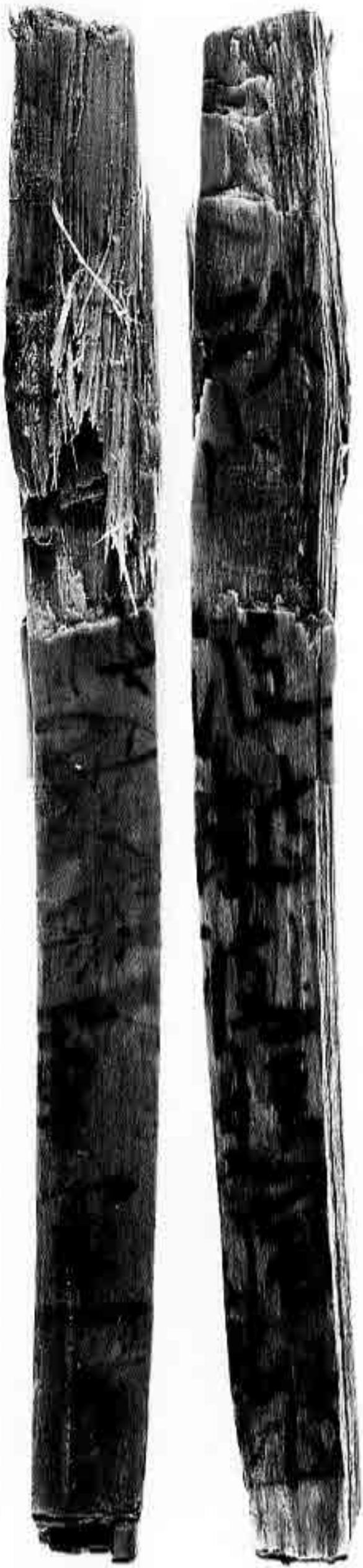


250



329





379



189



188



391

この概報には、さきに刊行した『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(十六)』(二〇〇二年十二月。以下、前号と略す)以後、二〇〇二年度に飛鳥藤原宮跡発掘調査部の行なった発掘調査で出土した木簡のうち、主要なものを収録する。木簡が出土したのは、①飛鳥藤原第一二二次(石神遺跡第一五次)、②同第一二四次(藤原宮東南官衙地区)の各調査である。

また、二〇〇一年度以前に実施した調査のうち、③飛鳥藤原第一五次(藤原京左京七条一坊西南坪、二〇〇一年度)、④同第一一八次(藤原宮東南官衙地区、二〇〇一年度)、⑤坂田寺第一次(一九七二年度)・第二次(一九七四年度)の各調査で出土した木簡も収録する。③はすでに前号で一部を取り上げたが、本号では未報告分の主なものについて報告し、また前号の部分的訂正を行なう。④は前号では報告できなかったが、②と一連の調査であるため、本号で合わせて報告する。⑤はこのたび機会を得て追加調査を行なったところ、新たな知見が得られ、従来の公表データを改める必要が生じたため、本号で取り上げる。

なお、以上の出土木簡はすでに一部を次の刊行物で報告している。①『奈良文化財研究所紀要二〇〇三』(二〇〇三年、以下『紀要二〇〇三』と略す)、③前号、⑤『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(一)』(一九七三年、『平城宮発掘調査出土木簡概報(九)』と合冊)いずれも、今後は本概報に扱いたい。

## 一、木簡の出土地点と状況

### 第一二二次調査(石神遺跡第一五次調査)

5AMD地区 二〇〇二年七月～二〇〇三年一月

石神遺跡の継続調査である。第一三次(飛鳥藤原第一一〇次、二〇〇〇年度)および第一四次(同第一一六次、二〇〇一年度)調査区の北側に東西三〇m、南北二〇m(面積六〇〇m<sup>2</sup>)の調査区を設けた。主な目的は、(1)第一三・一四次調査で検出した七世紀前半～中頃の施設北限とみられる東西方向の溝・塀などの北側の状況を明らかにし、北限の確定を行なうこと、(2)第一三・一四次調査では検出できなかった七世紀後半の施設北限を発見すること、以上の二点である。以下に検出遺構の概略を記す(図1、図2)。なお、時期区分(A～C期)は石神遺跡の既往の調査所見を踏襲している。

〔A期〕七世紀前半～中頃。調査区内は一面に沼沢地S X四〇五〇が広がり、建物や溝などの工作物は確認できなかった。古墳時代から一貫して沼沢地であったとみなされる。これにより、A期の施設北限は第一三・一四次調査区内におさまることが確定した。

〔B期〕七世紀後半。本号では二段階に分けて記述する。

B(1)期 A期の沼沢地を埋め立て、溝などを構築した段階。造成のための整地土は上層と下層に分かれていた。上層は礫を含む土層、下層はほとんど遺物や礫を含まない土層であった。溝S D四〇九〇(後述)の西側には木屑を含む暗灰色粘土が広がり、木簡も含まれて

いた。また、上層整地土を切り込む形で、木簡・木屑・炭などを多量に含む土坑群（SK四〇六〇、SK四〇六四、SK四〇六五、SK四〇六六、SK四〇六九）が掘られているのを確認した。

この段階の中心となる遺構は、西から東へ流れ調査区内で北に屈折する巨大な逆L字形の溝である。このうち、東流する素掘溝SD四〇八九は最大幅六m、深さは東端で〇・四m。これに接続して北流する素掘溝SD四〇九〇は幅九m、深さ約〇・五m。両溝ともに、堆積土は上層（木屑・炭・灰を含む有機質層）と下層（暗灰色粘質シルト層、灰色粗砂と灰色シルトの混ざった層）に大きく分かれていたが、上層堆積土は炭や灰が塊状に混ざり、それらが投棄された状況を示していたので、B期廃絶時の埋立土である可能性もある。

SD四〇八九とSD四〇九〇の境では、堤状の土橋SX四〇八四による水門状の構造を確認した。木簡はこの付近の溝内堆積土からまとまって出土した。流路の屈折と土橋の存在によって水流がこのあたりで一旦淀んでいたためであろう。

なお、上層整地土の面で検出した土坑群のうちいくつかは溝SD四〇八九に切られており、溝の改修が行なわれた可能性もある。

この巨大な溝とは別に、調査区北西でも小規模な逆L字形の素掘溝を検出した（東西溝SD四〇六八、南北溝SD四〇七三）。調査区内ではB期の建物は見つからなかったが、二重の逆L字形の溝で囲まれる調査区北西方向に何らかの施設が存在した可能性はある。

**B(2)期** 巨大な逆L字形溝が堆積土によって埋まった段階。溝SD

四〇九〇の堆積土を切る土坑（SK四〇九六、SK四〇九七）を確認した。これらの土坑は木屑を多量に含んでおり、B期施設の廃絶（C期施設の造営にともなう廃棄土坑とみられる）。

なお今回の調査では、第一三次調査で検出した大型建物SB三八九四を中心とする施設の北限となる東西堀の検出が予想されたが、調査区内では確認できなかった。この堀は、第一三・一四次調査区と今回の調査区の間で未発掘地に想定できる。

〔C期〕七世紀末。調査区全体が整地された後、B期の溝SD四〇九〇の東側で、北流する溝SD一三四七が掘られているのを確認した。この溝は従来の調査でも検出しており、C期に機能していた南北道路の西側溝であることがわかっている。同溝は当初幅四mほどであった（SD一三四七A）が、堆積によって浅くなったために溝の西側部分を掘り直し、側石をもつ幅一・二mの溝に造り替えられている（SD一三四七B）。木簡は溝SD一三四七Aの堆積土から大量に出土した。特に、溝がやや深くなる調査区中ほどからまとまって見つかった。石神遺跡全体を貫いて急傾斜で北流する溝SD一三四七がこのあたりで平坦な流れに変わるためであろう。

なお、SD一三四七の西側において、調査区内を広範囲に覆う石敷や、井戸、掘立柱建物などを確認した。この時期、調査区周辺に何らかの施設が設けられていたことは確実である。

〔C期以降〕調査区北西で幅〇・八mほどの浅い素掘溝SD四〇七二を検出した。C期後半、もしくはさらには後の遺構とみられる。ま

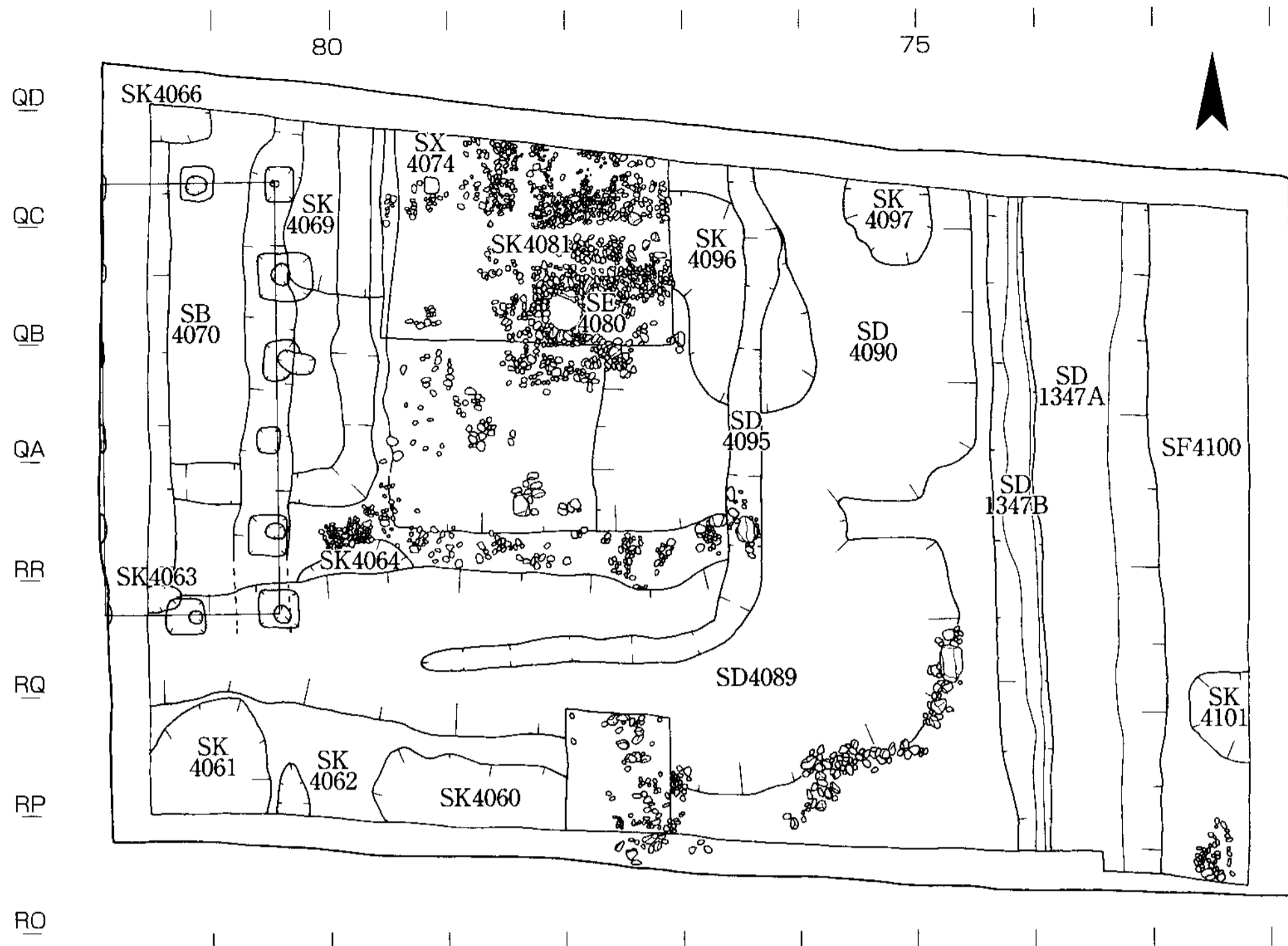


図1 第122次調査遺構図 1:250



図2 石神遺跡遺構変遷図

た、B期の巨大な逆L字形の溝(SD四〇八九、SD四〇九〇)と重なる位置で、きわめて浅い素掘溝(東西溝SD四〇九四、南北溝SD四〇九五)を検出した。地盤の軟弱な低位部に自然に形成された流水跡か、または一時的な排水溝であろう。

木簡は、各時期の整地土と遺構から、大量の土器(飛鳥IV・Vが主体)・木製品(斎串、形代、琴柱、羽子板状木製品、文房具、食事具、部材、横櫛、曲物、独楽、漆器蓋、漆器椀、工具柄、鎌の柄、火鑽板、籠など)・廃棄物(炭、灰)などとともに出土した。

年紀を持つ木簡は以下の一〇点を確認した。No. 34「乙丑年」(天智四年(六六五))、No. 10・107「戊寅年」(天武七年(六七八))、No. 83・119・124「辛巳年」(天武一〇年(六八一))、No. 101「癸未年」(天武一二年(六八三))、No. 113「甲申年」(天武一三年(六八四))、No. 94「乙酉年」(天武一四年(六八五))、No. 93「庚寅年」(持統四年(六九〇))。また、No. 152は持統三年(六八八)の具注暦を記す木簡である(復原図は図3)。荷札木簡などに記されるコホリ―サトの表記も「評―五十戸」「評―里」のみであるので、七世紀後半、特に天武・持統朝を中心とする時期の木簡が大部分を占めていると推定できる。遺物包含層からも木簡が出土しているが、内容から七世紀の木簡とみて差し支えない。

なお、現時点では削屑木簡の大半が未整理であるため、出土点数は次号で報告する。総計数千点に達する見込みであり、飛鳥池遺跡(約八〇〇〇点)に次ぐ、七世紀木簡の一大資料群となるであろう。

発掘調査の詳細については、『紀要二〇〇三』を参照されたい。

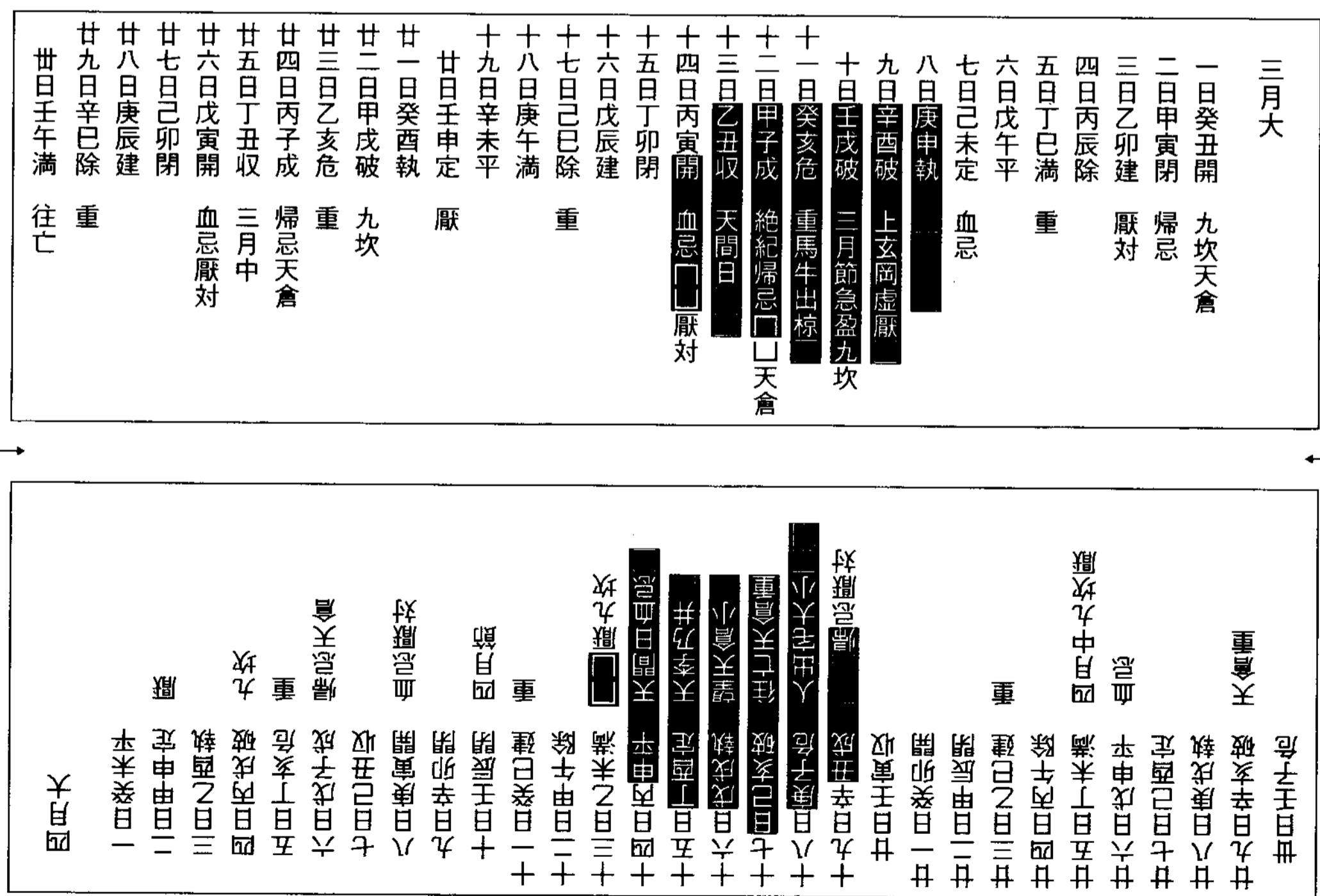


図3 具注暦木簡復元図

第一一八次・第一二四次調査（藤原宮東南官衙地区）

5AJD地区 二〇〇一年一〇月～二〇〇二年二月（一一八次）

二〇〇二年一〇月～十二月 （一二四次）

橿原市高殿町所在の高所寺池堤防改修工事にともなう調査である。二〇〇〇年度には高所寺池の南岸・東岸南半分を発掘し、木簡一点が出土した（飛鳥藤原第一一三次調査、本誌十五号）。これに引き続き、二〇〇一年度に同池の東岸北半分・北岸・西岸北部を（第一一八次調査）、二〇〇二年度に西岸南部を（第一二四次調査）それぞれ発掘した。調査面積は第一一八次調査が一八三〇㎡、第一二四次調査が一〇〇㎡である。調査区は藤原宮東南官衙地区と藤原宮南辺にわたり、南端は六条大路推定地におよぶ。二次にわたる調査により、五世紀後半～藤原宮期の遺構を検出した。木簡は、藤原宮直前期および藤原宮期の遺構から出土した。以下、当該時期の遺構の概略を記す（図4、ただし高所寺池の北岸・東岸部分は省略）。

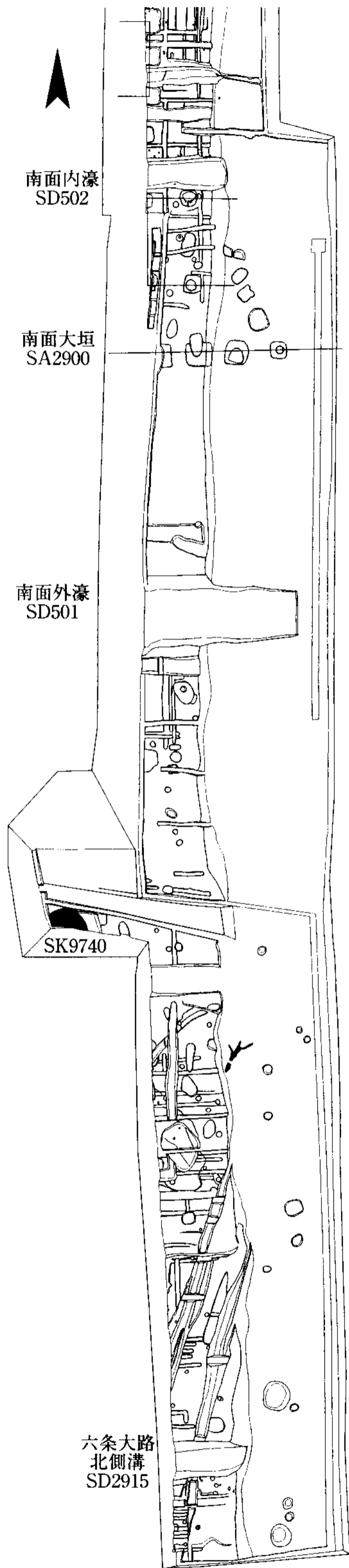


図4 第124次調査遺構図 1:500

〔藤原宮直前期〕宮内先行条坊道路としては、第一一八次調査区で東二坊坊間路・六条条間路とそれらの側溝を検出した。この他、第一一八次調査区で溝・土坑・井戸などを、第一二四次調査区で土坑などを検出した。第一二四次調査区の土坑SK九七四〇は、藤原宮南面外濠と六条大路北側溝のほぼ中間、高所寺池西岸の調査区を西に拡張した部分で検出した。土坑の東半分は攪乱により削平されており、検出できたのは全体の約四分の一である。直径約三mの円形状の土坑とみられ、残存する深さは約〇・九m。藤原宮造営にともなう廃棄土坑であり、多量の炭や木屑・鞆羽口などを含む。

〔藤原宮期〕藤原宮南面大垣・内濠・外濠を検出した。南面中門（推定朱雀門）以東で初めて藤原宮南限施設を確認できたことになる。南面大垣SA二九〇〇は柱間二・七m等間の掘立柱塀で、柱はすべて抜き取られていた。南面内濠SD五〇二は大垣の北一一・七mにある素掘溝で、幅は二・七m、深さは一・一～一・三m。下層は

砂やシルトなどの堆積土、上層は埋立土であった。南面外濠SD五〇一は大垣の南一七mにある素掘溝で、幅は四・五〜四・七m、深さは〇・七〜一・二m。砂や粗砂などの堆積土のみを確認し、埋め立てた痕跡はなかった。大垣と内濠はともに先行条坊道路である東二坊坊間路の東側溝SD六〇三一を埋め立てた後に造営されていたが、外濠は同東側溝と併存していた時期があることが判明した。また、大垣内で藤原宮東南官衙に関係する溝・堀・建物などを発見した。第一二四次調査区では六条大路北側溝を検出した。

木簡は、第一一八次調査では藤原宮南面内濠SD五〇二の堆積土から三点(すべて削屑)、第一二四次調査では藤原宮直前期の土坑SK九七四〇から一五点(すべて削屑)が出土した。

発掘調査の詳細については『紀要二〇〇三』を参照されたい。

### 第一一五次調査 (藤原京左京七条一坊西南坪)

5AWH地区 二〇〇一年四月〜一〇月

本次調査の概要は前号に掲載したが、前号刊行後、木簡の整理が進んできたので、現時点での整理結果にもとづいて報告する。また、前号に掲載した木簡の一部について、訂正を行なう。

遺構ごとの出土点数および総点数は下表に掲げたとおりである。今後の整理作業の進展によって若干の変動が予想されるが、これらで藤原宮・京跡で出土した木簡群としては最多の点数となる。

遺構の概要については前号を参照していただきたい。中世堆積層

第115次調査出土木簡点数

遺構名	木簡	削屑	合計
池状遺構 SG501	724	12517	13241
土坑 SK503	45	70	115
東西溝 SD504	1	0	1
中世堆積層(東区)	28	0	28
中世堆積層(西区)	31	64	95
総点数	829	12651	13480

は調査区を広く覆っていたため、本号では東区(四月〜七月の調査区)と西区(七月〜一〇月の調査区)に分けて報告する。前号で中世堆積層出土として報告した木簡は、いずれも東区からの出土である。

なお、池状遺構SG五〇一から出土した削屑木簡は膨大な点数にのぼる。出土範囲は遺構中央部の六m四方(小地区H16・H17・H18・H19)に集中し、とりわけH16・H18から大量に出土した。よって、H16・H18出土の削屑木簡(約九六〇〇点)については次号以降に委ね、本号ではそれ以外を報告することとした。

ところで、前号で的状木製品について言及した。出土点数はSG五〇一から三点、中世堆積層(西区)から六点である。的状木製品とは、不整な円形板の片面に墨で同心円を描いたもので、直径は一〇cm〜一六cm前後、厚さは約一cmである。矢が刺さったとみられる穿孔跡が確認でき、いずれも割れた状態で出土している。

本次調査出土木簡、特に池状遺構SG五〇一から出土した木簡は、きわめて一括性の高い良好な資料群である。門蒔制の運用に関わるものや、宮城十二門を守衛する門号氏族の名前を記したものなどが

多数含まれており、衛門府の官司運営を知るための格好の材料である。調査地近辺は衛門府本司の有力な候補地であり、今後の周辺地域における調査を期待したい。

## 坂田寺第一次・第二次調査

5BST地区 一九七二年八月～一〇月(一次)

一九七四年一月～四月(二次)

坂田寺跡出土木簡については、本誌一号で第一次調査出土分について報告したが、木簡の法量を記さなかった。また、第二次調査出土分については、本誌では未報告であった。本号では、両調査出土木簡のすべてについて、再調査した結果を報告する。

調査区は、奈良時代に造営された伽藍の北面回廊北方に位置する。第一次調査は東西二カ所の調査区、第二次調査は南北二カ所の調査区を設定した。以下、木簡が出土した七～九世紀の遺構の概略を記す(図5、明日香村教育委員会編『明日香村遺跡調査概報平成一〇年度』二〇〇〇年より転載、キャプションの一部を改変)。

〔七世紀前半～中頃〕第一次東区で池SG一〇〇を検出した。深さは一m以上、東岸に高さ約一mの護岸石が積まれていた。池の堆積土から、坂田寺創建期の瓦、七世紀中頃の土器などが出土した。七世紀の伽藍遺構は未確認であるが、SG一〇〇からの出土遺物は創建期の坂田寺に由来するものとみられる。

〔七世紀後半〕溝・土坑などを検出した。第一次西区では、土坑S

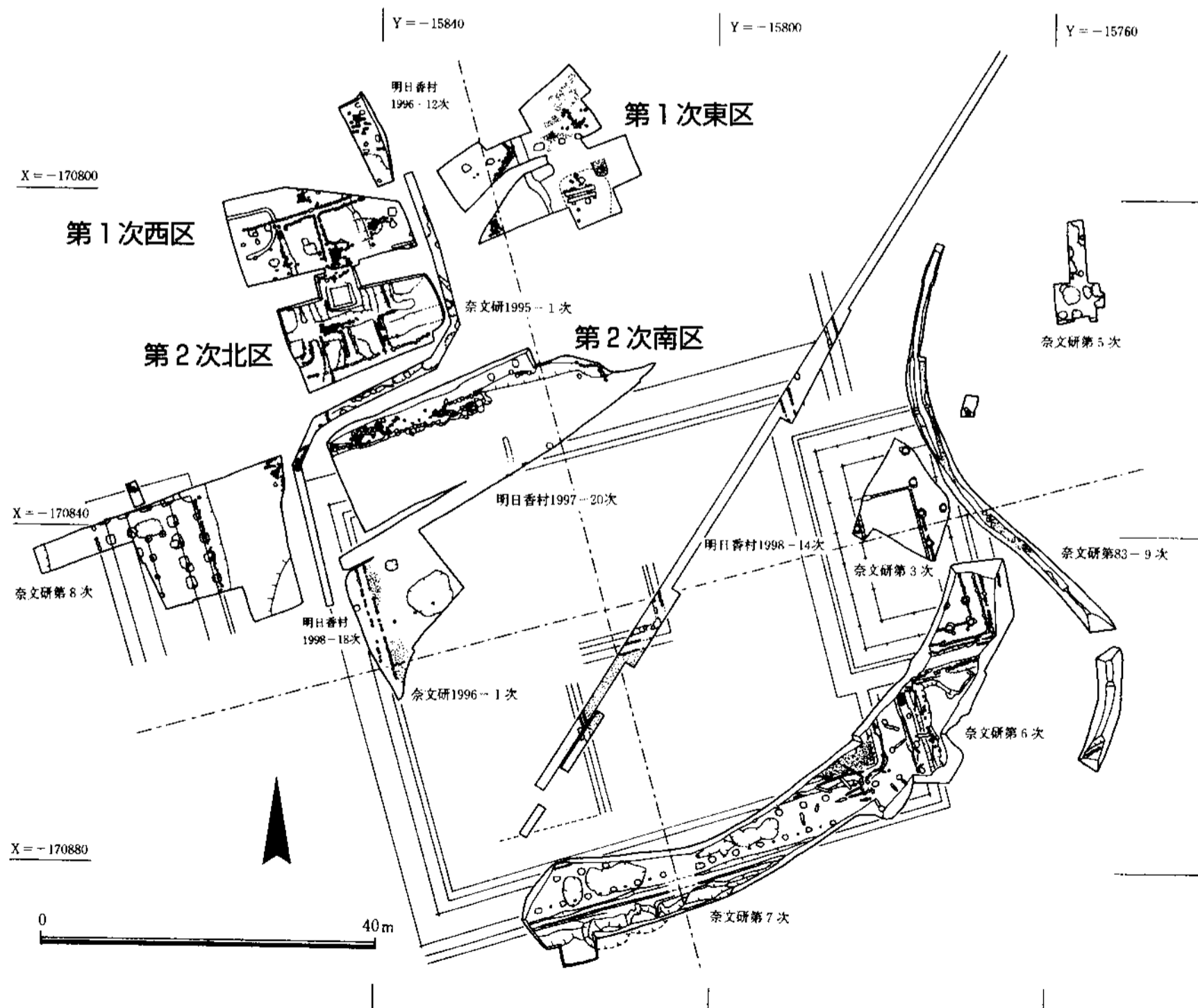


図5 坂田寺遺構図 1:1250



K〇八〇を検出した。同土坑から、七世紀後半の瓦・土器などが出土した。

〔八世紀前半〕掘立柱塀・掘立柱建物・溝・石敷・井戸・土坑などを検出した。第一次西区では、東流する東西溝SD〇五〇と北流する南北溝SD〇五一を確認した。いずれも石組溝で、SD〇五一の北端はSD〇五〇へ流れこんでT字形を呈している。第二次北区では、井戸SE一一〇Aを検出した。SD〇五一はSE一一〇Aの北側に取りつき、井戸の排水施設として機能していた。これらの石組溝とその周辺から、八世紀前半の瓦・土器などが出土した。

〔八世紀後半〕八世紀前半の遺構の上層で溝や石敷などを検出した。〔九世紀前半〕第二次北区で、井戸SE一一〇Aに重複する井戸SE一一〇Bを検出した。底には角材四本が井桁状に組まれ、その四隅に一辺約一七cmの断面をもつ角柱が立てられていた。隅柱には縦に細い溝が施され、側板が落とし込まれていた。側板はそれぞれ長さ約二二五cm、幅約二五cm、厚さ約六cmの板材で、底から五段分が原位置に遺存していた。地下部分の部材は完全に残っていたことになる。また、地上に露出する部分で井桁に組まれていた側板が、井戸内に投棄された状態で三枚見つかった。井戸掘形と側板の間には石や瓦が詰め込まれていた。当初掘立柱の井戸屋形が設けられていたが、後に礎石建に変更されたことも判明した。SE一一〇Bからは神功開宝二点、九世紀前半の土器などが出土した。

なお、井戸SE一一〇Bの部材の一部には番付墨書が記されている

た。側板外面には木目と直交する方向に「北一」「北二」「北三」「北四」「西一」「西二」「西三」などと記され、据付方位と段数を示す。隅柱外面には木目方向に「東北角」「北西角」などと記され、据付方位を示す。井戸部材に番付墨書が施された例として、平城宮跡の井戸SE一六八A(『平城宮発掘調査報告Ⅱ』一九六二年、四三頁)や井戸SE九二二〇(『同Ⅺ』一九八二年、一四〇頁)などが知られている(清水真一「番付考」『文化財論叢』一九八三年)。平城宮跡の例はいずれも側板の据付位置を方位と下からの段数の組み合わせで表示しており、坂田寺例とも共通する。また、番付墨書の他に、「丈ア」と線刻する井戸部材を三点確認している。

八世紀以降に作られた井戸・溝などの一連の遺構は、数回の改作を経てはいるが、調査地南側に位置する当該時期の伽藍とほぼ同方位で作られており、伽藍本体の北側に付属する施設と考えられる。井戸SE一一〇Bより「厨」と記す墨書土器が出土していることから、寺院に付属する厨を想定するのが妥当であろう。

木簡は、第一次東区の池SG一〇〇から三点、第一次西区の土坑SK〇八〇から一点、石組溝SD〇五一から三点、第二次北区の井戸SE一一〇Bから一点が出土した。SE一一〇Bから出土した墨書・刻書をもつ井戸部材については現在再調査中であり、詳細が判明した時点であらためて報告したい。

発掘調査の詳細は『飛鳥・藤原宮発掘調査概報(三)』(一九七三年)、『同(五)』(一九七五年)を参照されたい。

## 二、凡例

(一) 木簡は内容により、文書、付札、その他の順に排列するのを原則とし、便宜的に通し番号を付した。

(二) 積文の漢字は概ね現行常用漢字に改めたが、「賣」「掾」「廣」「聞」「ア」「マ」「ツ」「ム」などについては、この字体を用いた。なお「部」の異体字である「ア」と「マ」の違いは相対的なものである。

(三) 積文に加えた符号は次のとおりである。

・ 木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。

○ 木簡の上端もしくは下端に孔が穿たれていることを示す。

∴ 同一木簡と推定されるが直接接続せず、中間の一字以上が不明なことを示す。

□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数が推定できるもの。

□□□□ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□□□□□ 記載内容から、上または下に一字以上の文字を推定したものの。

「」 異筆、追筆。

■ ■ ■ 抹消により判読が困難なもの。

々々々 抹消部分の字画が明らかでない場合に限り、原字の左傍に付した。

〔×〕 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇所  
の左傍に・を付し、原字を上上の要領で右傍に示した。

「」 合点。

「」 校訂註のうち本文に置き換わるべき文字を含むもの。

( ) 右以外の校訂註、および説明註。

カ 編者が加えた註で、疑問が残るもの。

マ、 文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

(四) 積文下の右行上段のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・厚さを示す(単位はmm)。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法量を括弧つきで示した。長さ・幅は木簡の文字の方向による。

(五) 積文下の右行中段に現在の遺存の形態を示す型式番号を記した。なお端とは、木簡を木目方向においた時の上下両端をいう。

011型式 長方形の材(方頭・圭頭などもこれに含める)のもの。

015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は011・015・032・041・051型式のいずれかと推定される。

021型式 小型矩形のもの。

022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。

032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れたもの。

033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。

039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は031・032・033・043型式のいずれかと推定される。

041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。

043型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、左右に切り込みをもつもの。

049型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にするが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。

051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は033・051型式のいずれかと推定される。

061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。( )内に製品名を註記した。

065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

081型式 折損・割截・腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

091型式 削屑。

( )内の番号は二次的整形の場合に推定できる原型の型式。

(六) 釈文下の右行下段に出土地点を示す小地区名(アルファベット・数字)を記した。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した破片が接続したものは地区名を併記した。

(七) 釈文の出土地点下に付した「\*」印は、口絵図版に写真を掲げた木簡を示す。例えば「\*2」は「図版二」に対応する。

(八) 釈文下の左行に、木簡の原形を保持しない部分の形状に関する注記などを施した。その際、木簡の「上端」「下端」「左辺」「右辺」を「上」「下」「左」「右」と略記した。

(九) 地名表記を持つ木簡の一部について、『和名類聚抄』にもとづいて地名を推定した。推定地名は説明註として釈文右行に記し、『和名類聚抄』本文に記載のない地名については「」で表現した。なお、地名推定に際しては、池邊彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』(吉川弘文館、一九八一年)などを参照した。

木簡の釈読は飛鳥藤原宮跡発掘調査部の市大樹・竹内亮が行ない、編集に際しては阿部健太郎・池尾直洋・遠藤慶太・大井喜代・桑原佳子・佐藤健太郎・高村勇士・中橋玲子・額田政男・堀内千嘉・芳之内圭の各氏の協力を得た。写真撮影には井上直夫があたり、現像・焼付には岡田愛氏が協力した。図版作成には稲田登志子氏の助力を得た。本書は市大樹・竹内亮が編集した。



土坑SK四〇六六

13 「赤」米三斗  
〔米カ〕 91・22・4 011 QC81

14 論語学 091 QC81

15 間間間  
〔間カ〕  
□□ (165)・(25)・6 081 QD81  
上下折レ、左・右下割レ。

土坑SK四〇六九

(参河国碧海郡鷺取郷)  
16 委之取五十戸仕丁俵物□□  
〔建 建〕〔三カ〕  
二斗三中神井弥□□斗  
・ 銀銀釜□重子□小子□□  
建 建 □ 建 〕 197・40・2 011 QC80 \*2  
一部欠損。

17 庭カ  
□□一斗 大伴ア連□  
(125)・25・3 081 QC80 \*3  
上下折レ。

18 六月生五日記大アス□母  
・ 羅人カ  
□□児□母并二皮加利上  
□□二□上  
〔卅カ〕 192・30・6 031 QC80 \*4

19 月□□日記  
〔十一カ〕 貸 (104)・22・2 019 QC80 \*4  
上下折レ、左上割レ。

20 十一日西□□  
□□〔三カ〕野 137・32・6 011 QD80

21 廿七日  
〔廿八日カ〕  
□□□□ (50)・(14)・2 081 QC79  
上下折レ、左割レ。

22 別カ  
□麻呂 〔末〕〔神カ〕  
□□ (107)・28・4 081 QB79  
上下折レ。

23 三川□  
・ 幸□□ (天地逆)  
(55)・(16)・2 081 QD80  
上下折レ、左下・右割レ。

24 一奈尔  
月 月 月 月  
月 月 月 月  
・ 乙寅月生□  
□ア己太伴□ (124)・36・4 019 QC79 \*11  
下折レ。

25・舎 干 □

麗麗麗 □ □ □

殿 □ □ □

□ □ □ □ □

(142)・37.5 019 QC80 \*11  
下焼損。

26 法師大大

091 QC80 \*11

27 [御カ]  
□方

(75)・44.3 081 QC80  
上下折レ。

28 御 [御カ]  
□ [奉カ]

(20)・(19)・3 061 (琴柱) QC80  
四周二次的整形。

29 [六斗カ]  
□ □ □ □ □

(29)・(15)・3 061 (琴柱) QC80  
四周二次的整形。

30 □ □ □ □ □

(42)・(29)・5 061 (琴柱) QC80  
四周二次的整形。

31 尔

(25)・(15)・4 061 (琴柱) QC80  
四周二次的整形。

東西溝SD四〇八九(堆積土)暗灰色粘質シルト層

32 [夫カ]  
□ □ □ □ □

(107)・22.5 081 RQ75 \*4  
上下二次的切斷。

・ 伴人日乃 □

33 大学官 □

(148)・(19)・4 081 RQ77 \*4  
下折レ、右割レ。

34 (美濃国武芸郡大山郷)  
乙丑年十二月三野国ム下評

・ 大山五十戸造ム下ア知ツ  
□人田ア児安 [従カ]  
152.29.4 032 RQ77 \*6

(隠岐国隠地郡河内郷)

35 [川内カ]  
□ □ □ 五十戸若軍布

122.24.3 031 RP76  
右上欠。

36 奈尔波ツ尔佐児矢己乃波奈 [布由カ]  
□ □ □ □ □

・ □ □ 倭ア物ア矢田ア丈ア [丈カ]  
(295)・(29)・4 081 RP76 \*10  
下折レ、左割レ。

〔猪カ〕

37・大夫柳近逃浅選  
選出出未選  
〔選カ〕

□未選之□選文之□選  
(145)・33・3 019 RQ79 \*11  
下折レ。

38・人<sup>o</sup>人<sup>o</sup>人<sup>o</sup>人<sup>o</sup>

□□安  
(68)・31・3 011 RP75  
上下二次的整形。

39・大曆

□大□  
(29)・(22)・6 061 (琴桂) RQ79 \*11  
四周二次的整形。

40・年

□□  
(28)・(20)・5 061 (琴桂) RQ79 \*11  
四周二次的整形。

41・□月十□

□□  
(47)・(21)・6 061 (琴桂) RQ79 \*11  
四周二次的整形。

東西溝SD四〇八九(堆積土)有機質層

42 三野五十上□大夫馬草四荷□  
〔書カ〕〔奉カ〕  
179・19・3 011 RQ79 \*5

43・鮎川五十戸丸子ア多加

□鳥連淡佐充干食同五□□三枝ア□  
〔大カ〕〔十戸カ〕  
〔須カ〕  
□□ア□  
□ア白干食大野五十戸委文ア代□  
(185)・(28)・5 081 RQ75 \*2  
上下折レ、左割レ。

44 (尾張国愛智郡物部郷・太毛郷・日部郷)

物ア五十戸人 □□  
大家五十戸人 □□  
日下五十戸人 □□  
98・26・5 011 RQ76 \*2  
左下斜メニ削リ。

45 〔鳥馬カ〕  
□甘□甘連麻□

(74)・16・4 019 RR75  
下折レ。

46 〔下番カ〕  
□□

〔茜カ〕  
□ア忍麻呂

(170)・(9)・4 081 RP75 \*2  
下焼損、左右割レ。

47 . □ 價上人三野国  
 . 古麻呂赤奈佐馬  
 (118)・34・3 011 RQ76 \*5  
 上下二次的整形。

53 . 川嶋 [五十力]  
 . □ 俵  
 77・21・3 032 RP75

(美濃国不破郡)  
 48 . 不破評

〔價カ〕〔日カ〕  
 . □ □ □ □ □ □  
 95・27・5 011 RQ77

54 . 道評原五十戸  
 . 俵  
 (88)・20・3 081 RQ80  
 上下折入。

(尾張国山田郡)  
 49 . 尾治国山田評山田五十 [戸人カ]

□ □ □ □ □ □  
 . □ □ □ □ □ □  
 213・29・3 032 RQ75 \*7

55 此皮加都男  
 109・19・3 032 RQ76 \*9

(近江国伊香郡柏原郷)  
 50 . 伊香評柏原

□ □ □ □ □ □  
 . □ □ □ □ □ □  
 (145)・23・5 039 RQ76  
 下折入。

56 . □ □ □ □ □ □  
 . 米六斗  
 (58)・(17)・5 039 RQ79  
 上折入、左右割入。

(隱岐国知夫郡 [大結郷])

51 . 知夫利評 大結五十戸加毛ア  
 手伊加乃利六斤

□ □ □ □ □ □  
 . □ □ □ □ □ □  
 (重書)  
 130・25・4 031 RQ78

57 □ 人俵  
 (71)・(29)・5 039 RP75  
 上折入。

58 . 奈尔皮  
 . 絲入 [正カ]  
 (62)・(18)・2 081 RQ77 \*10  
 下折入、左割入。

(讃岐国多度郡 [方田郷])  
 52 . 多土評難田 □

□ □ □ □ □ □  
 . □ □ □ □ □ □  
 117・18・3 011 RR76 \*8

59 . 乃皮奈己  
 . □ □ □ □ □ □  
 (重書)  
 (65)・(17)・8 081 RP75 \*10  
 上二次的整形、右割入。



60・正月 四月  
取

・易易  
〔王 〕

(77)・(32)・3 061 (曲物底板) RQ78  
上二次的整形、下折レ、左二次的整形、右  
割レ。

67 〔第弟カ〕  
□□□

091 RQ78

61・加□都良

・  
□□□〔矢カ〕

67・(22)・2 081 RR76  
右割レ。

69・□奉□

(26)・(21)・6 061 (琴柱) RQ79  
四周二次的整形。

62 □奉□

(35)・(17)・3 081 RQ80  
上下折レ、右割レ。

南北溝SD四〇九〇(堆積土)

暗灰色粘質シルト層・灰色粗砂+灰色シルト層

63 次物

(60)・(38)・5 065 RP75  
四周二次的整形、左下焼損。

70・□□舍人

(93)・33・5 019 QB75  
下折レ。

64・馬鳥〔嶋カ〕  
□

・道〔道カ〕  
□

(83)・(23)・2 081 RQ79  
下折レ、左右割レ。

71 今日移□□

116・(27)・3 081 RR76  
左下・右割レ。

65 〔伴カ〕  
□伴伴

(44)・6・2 081 RP76  
上下折レ、左右割レ。

72・十一月六日  
・尾治中嶋

125・30・4 011 RR76 \*5  
左上欠。

66・□□字字□

・□□頁□□

(80)・(10)・2 019 RP75  
上折レ、下・左右二次的整  
形。

73 物ア五十戸長濟ア刀良俵六□〔斗カ〕

(190)・20・3 031 RR75 \*9  
下折レ。

74. 還□申□  
〔還カ〕

96・(26)・3 081 RR76  
左折、右二次的整形。

75. 奉夫奉 奉夫夫  
奉夫夫 夫□夫□

(153)・40・7 051 RR76 \*12  
下折。

南北溝SD四〇九〇(堆積土)有機質層

76. □此于□ア□  
〔物カ〕

(181)・35・5 019 QA76 \*3  
上折。

77. 日佐連二 守君□  
主寸三 菌人四 下毛野

大多君二 者多□二 下毛□  
上球五 近水海四 伊□  
□□五

(120)・37・2 019 RR76 \*3  
下折、右下折。

海ア□□五 但波□  
〔西可カ〕

78.

□  
□深

(37)・(163)・6 081 RR76  
上下折、左右折。

□

(参河国渥美郡大壁郷)

79. 飽□評大辟ア五十□  
〔海カ〕

委文ア□□□

123・24・6 032 QA76 \*7

(近江国高島郡角野郷)

80. 角里山君□□米□斗

177・22・6 051 QA76

(美濃国大野郡栗田郷)

81. 大野評栗須太里人

蝮□ア□也六斗  
〔公カ〕

193・26・2 032 QA75 \*6

(隠岐国海部郡)

82. 海評□□

(56)・23・5 039 QA76  
下折。

83. 辛巳□

(37)・18・2 039 QA77 \*7  
下折。

可毛評□

84 ・庚□

(39)・(17)・3 039 QB75  
下折レ、左割レ。

〔B(2)期〕

土坑SK四〇九六

(尾張国丹羽郡)

85 ・□ア枚夫

(70)・21・3 019 QB75  
上折レ。

90

□日□尾張国尔皮評人□□  
〔記カ〕〔各カ〕

(185)・(17)・3 081 QB76 \*4  
上下折レ、左割レ。

86 □〔贄カ〕  
□久々□

(85)・(25)・5 081 QC76  
上下折レ。

91

尾□□□  
〔治カ〕

(78)・(14)・3 039 QB76  
下折レ、右割レ。

87 ・□□□〔申カ〕

記田□□〔寝カ〕  
又出□□□道

92

三川国各田評□  
(参河国額田郡)

(102)・17・3 039 QB76 \*7  
下折レ。

□□当還還還召□□  
□□□□

234・46・5 051 RR75

93

□□年十二月三川国鴨評  
〔庚寅カ〕  
山田里物ア□□□米五斗  
(参河国賀茂郡山田郷)

(177)・25・3 032 QB76  
上折レ。

88 ・月生

(37)・(13)・5 081 QA76  
下折レ、左右割レ。

94

乙酉年九月三野国不□  
評新野見里人止支ツ  
(美濃国不破郡新居郷)

170・25・3 011 QB77 \*6  
右下斜メニ削リ。

89 (符籙)

190・27・4 033 QA77 \*12  
左下欠。

95

深津五十戸養  
(備後国深津郡〔深津郷〕)

182・20・4 032 QB76 \*9

96 (参河国幡豆郡磯泊郷)  
之者津五十戸人

建公ア御加塩又建公ア□  
(157)・22・6 039 QB76 \*8  
下折レ。

97 [多カ]  
□田羅 □  
(115)・(17)・3 081 QB76  
下折レ、左右割レ。

98 □伎官□□[伎カ]  
□[伎カ]□[伎カ]□  
官□官□官 (他ニ重書アリ)  
(171)・35・5 081 QC76 \*5  
上下折レ。

99 年年  
(60)・(23)・(3) 081 QB76  
下二次的切断、左割レ。

100 三  
(98)・(20)・(5) 081 QB76  
四周焼損。

土坑SK四〇九七

101 癸未年九月□□[十四日カ]  
□□

四人 □矢爪ア□□[鳥カ]  
(96)・(11)・4 081 QB75 \*2  
下折レ、右割レ。

102 各田□□[アカ]  
(60)・19・7 039 QB75  
下折レ、右下割レ。

103 米六斗 □□  
(110)・13・3 039 QB75  
上折レ。

104 [善カ]  
□善善善善意□  
□敬敬□非□□  
(124)・(11)・3 081 QB75  
上下折レ、左右割レ。  
105 [万カ]  
□德  
(33)・(14)・4 081 QB75  
上下折レ、左割レ。

東西溝SD四〇八九(埋立土)

106 (美濃国各務郡[汗努麻郷])  
各牟評汗□  
(80)・25・4 039 RQ80 \*6  
下折レ。

107 戊寅□□[年カ]  
建王ア止己 □□  
(62)・(22)・2 081 RP78 \*8  
下折レ、右割レ。

108 □評佐遲  
□麻呂 六斗  
(62)・23・4 019 RQ78  
上折レ。

109 □ 閉  
(66)・(17)・3 081 RP78  
上二次的切断、下折レ、左  
右割レ。

110 □ □ 白米  
(88)・(10)・7 081 RP78  
上二次的整形、下折レ、右  
割レ。

111 曠曠 □ (天地逆)  
(88)・(27)・3 081 RQ77  
下焼損、右割レ。

南北溝SD四〇九〇(埋立土)

112 [十] 記カ  
□ 三日 □ □ □  
(61)・(22)・2 081 QA75  
上二次的切断、下折レ、右  
割レ。

113 (美濃国大野郡「堤野郷」)  
[年カ]  
・ 甲申 □ 三野大野評  
・ 堤野里工人鳥六斗  
189・27・7 032 QA76 \*7  
左上欠。

114 ・ 四東五 □  
・ □ 東 □ □ □ □  
(92)・22・7 081 QA76 \*4  
上下折レ。焼痕多シ。

115 ・ □ 念念念応応  
・ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ [寺寺寺寺カ]  
(115)・(11)・2 019 QA75 \*11  
上二次的整形、下折レ。

116 ・ 廿二又 □  
[薦カ]  
□ □ □  
70・29・5 051 QA76

[C期]

C期造成整地土

117 ・ 八 九 乙  
□ 七 日 二乙  
乙 六 八 二乙  
占 [取カ] [里人カ]  
□ ア □ □ □ □ □  
112・42・6 011 QA78 \*12

南北溝SD一三四七A(堆積土)

118 ・ 以七月廿四日 □ 上掬 □  
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □  
(138)・(20)・3 081 RP73 \*3  
下折レ、左右割レ。

119 ・ 辛巳年  
(削り残り) □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ (削り残り)  
[大伴ア] [大伴ア] [大伴ア] [大伴ア]  
[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
(削り残り) (削り残り)  
(97)・(38)・3 081 RR73 \*2  
下二次的切断、右割レ。

- 120  
 □□ 大伴ア  
 □ 君子ア  
 □  
 (71)・(17)・3 039 RP73  
 上下折レ、左右割レ。
- 121  
 □ア五十戸  
 □ □ア五十戸  
 (165)・(10)・3 081 QA73  
 上下折レ、左右割レ。
- 122  
 白加ア王  
 091 RR73 \*5
- 123  
 上〔御カ〕□□  
 四斗□□□  
 (84)・(13)・3 081 QB73  
 上折レ、左右割レ。
- 124  
 (伊豆国賀茂郡賀茂郷)  
 辛巳年鴨評加毛五十戸  
 矢田ア米都御調卅五斤  
 161・21・4 032 QC73 \*9
- 125  
 (近江国野洲郡三上郷)  
 安評御上五十戸  
 安直族麻斗一石  
 166・24・2 033 RQ73 \*7
- 126  
 (美濃国不破郡遠佐郷)〔野不カ〕  
 □□年十一月三□□国□波評  
 日佐里勝マ支佐手春 白米  
 □斗 175・20・6 011 QB73
- 127  
 (美濃国厚見郡皆太郷)〔三カ〕  
 □野国厚見評草田五十戸  
 □田 両 □田 □米五  
 (145)・22・5 039 QC73 \*6  
 下折レ。
- 128  
 (因幡国高草郡野坂郷)〔岬カ〕  
 高草評野□五十戸鮎日干  
 費 170・26・4 031 RQ73 \*8
- 129  
 針〔間カ〕□□  
 〔三カ〕□家人□  
 (53)・20・4 039 QA73  
 下折レ。
- 130  
 (備後国神石郡〔小近郷〕)  
 神石評小近五十□□〔戸カ〕  
 〔養カ〕□米六斗□升  
 105・16・4 033 QA73 \*9
- 131  
 売羅評長浜  
 五十戸堅魚  
 86・22・5 032 RR73 \*9
- 132  
 評五十戸山ア大関  
 131・19・5 033 QB73 \*8  
 143ト同一筆跡ノ可能性アリ。

133 □河止五十戸人

・阿麻 二人相六斗二升  
麻伊

(103)・31.5 019 QB73 \*9  
上二次的切斷。

134 □評大□  
□白米□

(68)・25.3 081 RR73  
上下折↘。

135 [安力]  
□五戸

・布奈□□

74.16.2 032 QB73 \*7

136 許津

106.14.6 033 RR73  
左割↘。

137 蓮花之□

・所説之□ [尊力]

(68)・(8)・3 081 RQ73 \*10  
下焼損、右割↘。

138 成智

(63)・(12)・2 081 QA73  
上下折↘、左右割↘。

139 而札札□ [伴力]

㊦㊦㊦㊦

173.20.8 051 QB73 \*12

140 □荒廿流田

・□野□□□

105.33.3 011 QB73

141 □ 二二六

(101)・(10)・(3) 081 RR73  
上下折↘、左右割↘。

142 二二□ [二力]

76.8.14 081 RR73  
左割↘。

南北溝SD一三四七B

143 評五十戸

・山ア□□呂 [大カ]

78.18.3 051 QA74 \*8  
132 卜同一筆跡ノ可能性アリ。

南北溝SD一三四七(埋立土)

144 御垣守□

(77)・34.4 081 QA74 \*3  
下折↘、左上割↘。

145 (隠岐国海部郡佐作郷) 勝ア由手  
海評佐々五十戸 調制代煮一斗五升

197.27.2 031 RQ73 \*8

[C期以降]

南北溝SD四〇七二

146 九月生十□

・御垣守日□

(67)・(13)・2 081 QC80 \*3  
下折↘、左右割↘。

147. 十一月十三日 □  
〔今日カ〕  
□ □ □

一人十二刀  
一人十二刀  
一人十二刀  
四人

(75)・(28)・3 019 QB80 \*12  
下折レ、左右二次的整形。

148. 一人十 □  
〔卒カ〕  
□ □ □

(54)・(23)・3 081 QB80  
上下折レ、左割レ、右二次的整形。

149. □月廿日記 □  
〔丑カ〕  
□上米廿 □

(63)・(22)・2 081 QB80  
上下焼損、左割レ。

150. □日白 □ □  
米色日

(94)・19・3 019 QB80  
下折レ。

151. □〔評カ〕  
□山田里丈ア □

(105)・25・4 081 QB80  
上下折レ。

南北溝SD四〇九五

152. □〔庚カ〕〔執〕  
□申丸

□辛酉破

□ □ □ □  
上玄 □〔岡カ〕虚厭 □

□壬戌皮〔破〕

□三月節急盈九 □

□癸亥色〔危〕

□〔重カ〕馬牛出掠 □

□〔甲カ〕子成

□絶紀帰忌 □

□〔乙カ〕丑収

□天間日 □ □

□〔開〕

□血カ忌 □ □

□〔申カ〕平

□天間日血忌 □

□丁酉定

□天李乃井 □

□戊戌丸〔執〕

□望天倉小 □

□己亥皮〔破〕

□往亡天倉重

□庚子危

□人出宅大小 □ □

□〔丑カ〕成カ

□ □ □ □〔帰カ〕

(108)・(100)・14 065 RR76 \*1  
四周二次的整形。



153

□ 下古二刀  
合評□  
□ 川人十一刀

(71)・38・3 081 RR76  
上折レ、左下・右下欠。

158  
・ 朔十四日記三□  
□ [十カ]  
□ 五日記三川□ [国カ]

(152)・30・3 019 QA81 \*4  
上折レ、下二次的整形。

154

校□記

(57)・(30)・2 081 RQ76  
下折レ、右割レ。

〔その他〕

土坑SK四〇六三

155

(越前国敦賀郡從者郷・同国丹生郡從省郷)  
從者五十戸人□□□□

185・22・5 033 RQ81

南北溝SD四〇七一

156

・ 巳四午九  
月

61・(29)・4 011 QC81 \*12  
左二次的整形、左上割レ。

161  
〔舟カ〕  
□ 木ア君林俵

117・26・6 032 QA76

160

・ □ 比皮五十戸  
・ □ 米□

(94)・17・5 081 RR79  
上下折レ。

159

(伊賀国名張郡名張郷)  
・ 奈波利評□ [奈カ]  
□ □ □ □

(76)・(15)・3 081 RR74  
下折レ、左右割レ。

遺物包含層

157

□ 飼馬牛  
□ 物夫  
下米捌 [斗カ]  
□

(98)・27・5 019 QA75  
上折レ、下二次的整形。

162

・ □ □ 五十戸人他田舎  
□ □ □ □

(92)・17・3 019 QA78  
上折レ。

第一一八次調査（5AJD地区）

藤原宮南面内濠SD五〇二

163  〔男カ〕 091 QP78

第一一五次調査（5AWH地区）

池状遺構SG五〇一

167 〔海カ〕 語宮門 (125)・29・2 081 HJ17 \*13  
下折レ、左上・右上欠。

168 宮入奉 (75)・24・1 081 HJ16 \*13  
上下折レ。

第一二四次調査（5AJD地区）

土坑SK九七四〇

164 三口 091 RR82

169 職 〔出カ〕 (56)・(17)・2 081 HK17  
上下折レ、左右割レ。

170 〔内親カ〕  (149)・(6)・2 081 HJ16  
上下折レ、右割レ。

171 醬一斗一升三合 (80)・(11)・5 081 HK17  
上折レ、左右割レ。

165 人下寸主  091 RR82

172 二筭 (42)・24・2 081 HJ17  
上下折レ、右下割レ。

166 〔十カ〕 四  091 RR82

173 十一月  (46)・(16)・5 081 HL17  
上下折レ、左割レ。

174 十二月

(56)・(18)・2 081 HK18  
下折レ、左割レ。

175 四月廿六日記

(213)・(15)・4 081 HI16 \*13  
上折レ、左右割レ。

176 十人  
〔請カ〕 中番

200・(22)・4 081 HJ16 \*13  
左右割レ。

177 進大  
〔初カ〕

(59)・23・4 019 HI18  
下折レ、左上欠。

178 佐伯支

(90)・18・3 019 HI17  
下折レ。

179 犬甘

(37)・(8)・3 081 HJ16  
上下折レ、左右割レ。

180 〔茨田宿祢カ〕  
ア

(172)・(6)・2 081 HJ16  
上下折レ、左右割レ。

181 物マ万得

87・26・4 011 HK17

182 〔生カ〕  
君 ア 近水海

(107)・(29)・2 081 HJ16 \*13  
上折レ、下二次的切断、左右割レ。

183 上球国

(72)・(9)・5 081 HI15 \*13  
下折レ、左右割レ。左辺ニ穿孔。

184 〔恒カ〕

〔品カ〕

(23)・(144)・3 081 HJ16  
下折レ、左右割レ。

185 分 〔逐カ〕

ア

(12)・(90)・3 059 HJ16  
上折レ、下二次的整形、左右割レ。

186 序□ 備  
(23)・(52)・4 081 HL17。  
下二次的整形力、左右割レ。

187 辨□ 辨  
[4小]  
(47)・(82)・6 081 HJ16  
上下二次的切断、左割レ。

188 勅勅令令来散散騎  
□豆 □懼 [狛力]  
(195)・(29)・1 081 HI16 \*16  
上下折レ、左右割レ。

189 論被人被人論論被  
被被  
[猪猪力]  
□使□使論被被□人□  
197・(28)・4 011 HJ17 \*16  
左二次的整形力、右上欠。

190 [九々八  
□□□十一□四四十六]  
六八 [冊八力]  
(162)・(12)・3 081 HJ16  
下折レ、左割レ。

191 道守臣東人道守臣  
[道守力]  
□□□  
(185)・45・3 019 HI17  
下折レ。

192 道道道□□  
□□□□  
(104)・(16)・2 081 HI17  
上下折レ、左右割レ。

193 虫道 [道力]  
□□□  
(164)・(24)・2 081 HI17  
上下折レ、左右割レ。

194 [衛衛力]  
□□  
(85)・(10)・4 081 HJ16  
下折レ、左右割レ。

195 加皮止利□  
[利力]  
加皮止□  
(96)・22・2 019 HI16  
下折レ。

196 人人  
(84)・(18)・1 081 HI16  
上二次的切断、下折レ、左  
右割レ。

197 讚  
(27)・(12)・1 081 HJ17  
下折レ、左右割レ。

198 守  
18・15・2 081 HI16  
上下折レ、右割レ。

199	〔王カ〕 □下衣	091 HI15	208	賜	091 HJ17
200	〔春カ〕 □日若王	091 HI15 *15	209	皇太妃□	091 HI15 *14
201	□高宮	091 HJ17 *14	210	〔職カ〕 □□□	091 HJ17
202	矢作宮	091 HJ17	211	中務省〔移カ〕 □	091 HJ17 *15
203	□坂〔宮カ〕 □	091 HJ17	212	中〔務カ〕 □	091 HJ17
204	□宮	091 HJ17	213	丁持〔人カ〕 □□	091 HJ17
205	□宮	091 HJ17	214	持出□	091 HJ17 *15
206	□宮	091 HJ17	215	〔蝮カ〕 □部宮	091 HI17
207	□殿□	091 HJ17	216	〔王カ〕 □門	091 HJ17

226	〔三カ〕 □年九月	091	HI15	236	三	091	HI17
225	元年十一月	091	HI17 *14	235	□四	091	HK17
224	〔戊カ〕 □寅年	091	HJ17	234	十五	091	HI15
223	□升□	091	HJ17	233	〔廿カ〕 □四日	091	HJ17
222	枇 椋	091	HJ17 *14	232	月	091	HI17
221	塩	091	HJ17	231	月□	091	HJ17
220	箭	091	HJ17	230	月廿□	091	HI17
219	門	091	HI15	229	十一月廿	091	HI15
218	□〔門カ〕 □	091	HI15	228	正月	091	HJ17
217	門□□	091	HJ17	227	□年□	091	HK17

244	宜□	091 HI15	254	初□	091 HI15
243	等	091 HI17	253	進□〔廣力〕	091 HJ17
242	□等	091 HJ17	252	追	091 HI15
241	等前朋□〔申力〕	091 HJ17 *15	251	追	091 HI15
240	□治	091 HJ17 *14 237・238・239 ト同一簡。	250	□追冠九〔長〕	091 HI17 *15
239	□□乎□	091 HJ17 *14 237・238・240 ト同一簡。	249	□□〔務力〕	091 HJ17
238	下□□□□□薦	091 HJ17 *14 237・239・240 ト同一簡。	248	務従	091 HJ17
237	〔月力〕□□呂□□等前朋謹申□□	091 HJ17 *14 238・239・240 ト同一簡。	247	□□〔奉力〕	091 HI15
			246	□□□〔宛力〕— — — — — (横線)	091 HI17
			245	賜坐□	091 HJ17 *15

264	□山部	091 HI17	274	□物ア	091 HI15
263	犬甘足	091 HJ15	273	□物ア	091 HI15
262	□若犬	091 HJ17 *14	272	物ア	091 HI15
261	□佐伯	091 HI15	271	物マ足	091 HI15
260	伴	091 HI17	270	□靱	091 HJ17
259	大伴	091 HJ15	269	田□□ □生カ	091 HJ17
258	大伴	091 HI17	268	□生カ	091 HI15
257	□位上	091 HI15	267	□木ア	091 HI17
256	□廣	091 HI15	266	建	091 HK17
255	廣	091 HJ18	265	的臣乙麻	091 HI15





295	□人□	091 HI15	305	病□	091 HK17
296	奈□	091 HI17	306	尾治国	091 HJ17 *14
297	棕	091 HI17	307	申下掾	091 HJ17 *15
298	干□□	091 HI15	308	□貴郡	091 HJ17
299	□番カ	091 HI17	309	□玉郡	091 HJ17
300	□□宿カ	091 HI15	310	郡	091 HJ17
301	〔三十三逃去四	091 HI17	311	郡	091 HK16
302	逃	091 HI15	312	□□里カ	091 HI15
303	□逃カ	091 HI17	313	□□里カ	091 HI15
304	病物□マカ	091 HI15	314	里□	091 HJ17

(「〇」形ノ合点)

315 □ 宮 出 □ □

091 HI15

324 □ □ 伴 [天カ] □ □

091 HJ17

316 □ □ 呂若 □ 王

091 HJ17

325 □ □ □ 人 □ 少 □ □

091 HJ17

317 □ 給 □ □

091 HJ17

326 □ 末 [百カ] □ 末 □ □

091 HI15

318 □ 皇

091 HI17

327 □ □ [蝮カ] □ 從 □ 御

091 HK17

319 □ □ 癸

091 HI15

320 □ □ 門 御

091 HI15

328 從的 □ 位 [初カ]

091 HJ17 \*14

329 人回一纏。

321 □ [物カ] 門

091 HI15

329 □ □ 九 □ □ 魚 十八 □ 四 枋 王 葛 從的 □ 籠 □ □

091 HJ17 \*15

328 人回一纏。

322 請 屋 進 □

091 HJ17

323 進 □ 女

091 HI15

330 □ 布 □ 少 □ □ □ □

091 HI17

331 □ 麻 □ 丈

091 HI17

340 升

091 HI15

332 二 □ [常力] □

091 HI15

341 治 園

091 HJ17

333 □ 米

091 HI17

342 □ 川

091 HI15

334 俵 □

091 HI17

343 □ [野力] □

091 HI17

335 醉

091 HI17

344 □ 日 □ 彈

091 HJ17

336 一 人 □ □

091 HI17

345 □ 後

091 HI17

337 六

091 HI17

346 □ [被力] □

091 HI15

338 瓶 □

091 HI15

347 門 [門力] □ □

091 HI15

339 □ □ [瓶力] □

091 HI15

348 位 [位力] □ □

091 HI17

349 肆肆肆肆賜

091 HI15

359 関□

091 HI17

350 足足足足

091 HI17

360 毛□

091 HI15

351 人人

091 HI15

361 子□

091 HI15

352 [大力] □大

091 HI15

362 語□

091 HK17

353 用用

091 HI17

363 泉□

091 HJ17

354 □□吉毛

091 HI17

364 □皮

091 HJ17

355 □罷

091 HI17

365 貸

091 HJ17

356 □加利

091 HI15

366 白

091 HI15

357 □車□

091 HI17

367 可

091 HI17

358 上寸

091 HJ17

368 飯

091 HI17

369 百 091 HI15

377 上□欽廿〔二カ〕 (88)・27・4 019 HK17  
下折↙、右下割↘。

370 都 091 HJ17

378 智 □足 (42)・(20)・2 081 HM17  
上下折↙、左割↘。

371 太 091 HJ17

379 坎 □波 □波 □波 □風 □風 □波  
〔波カ〕 〔波カ〕

372 上 091 HI15

運 運 運 運 運  
225・(21)・10 081 HM20 \*16  
左右割↙。

373 皮 091 HK16

374 神 091 HI15

380 出 091 HL20

中世堆積層(西区)

381 衛 □ 091 HL20

375 大伴マ〔鳥カ〕 □右十

(167)・(15)・3 081 HM19 \*13  
上下折↙、右二次的整形。

382 丈丈丈 □ 091 HL20  
383 同一簡。

383 丈 091 HL20  
382 同一簡。

376 〔一カ〕 □日百廿一 (190)・12・9 015 HK19  
上折↙。

384 □大 091 HL20

坂田寺第一次調査 (5BST地区)

池SG100

385 十斤 56.21.4 032 FK47

386 十斤 49.19.4 032 FK47

387 十斤 41.20.4 032 FK47

土坑SK080

388 賀年   (72)・(13)・3 081 FK51  
下折レ、左右割レ。

溝SD051

389 〔沫カ〕  升   (48)・(20)・4 081 FK53  
上下折レ、左右割レ。

390 〔三カ〕

(125)・(13)・5 081 FK53  
上下折レ、左右割レ。

坂田寺第二次調査 (5BST地区)

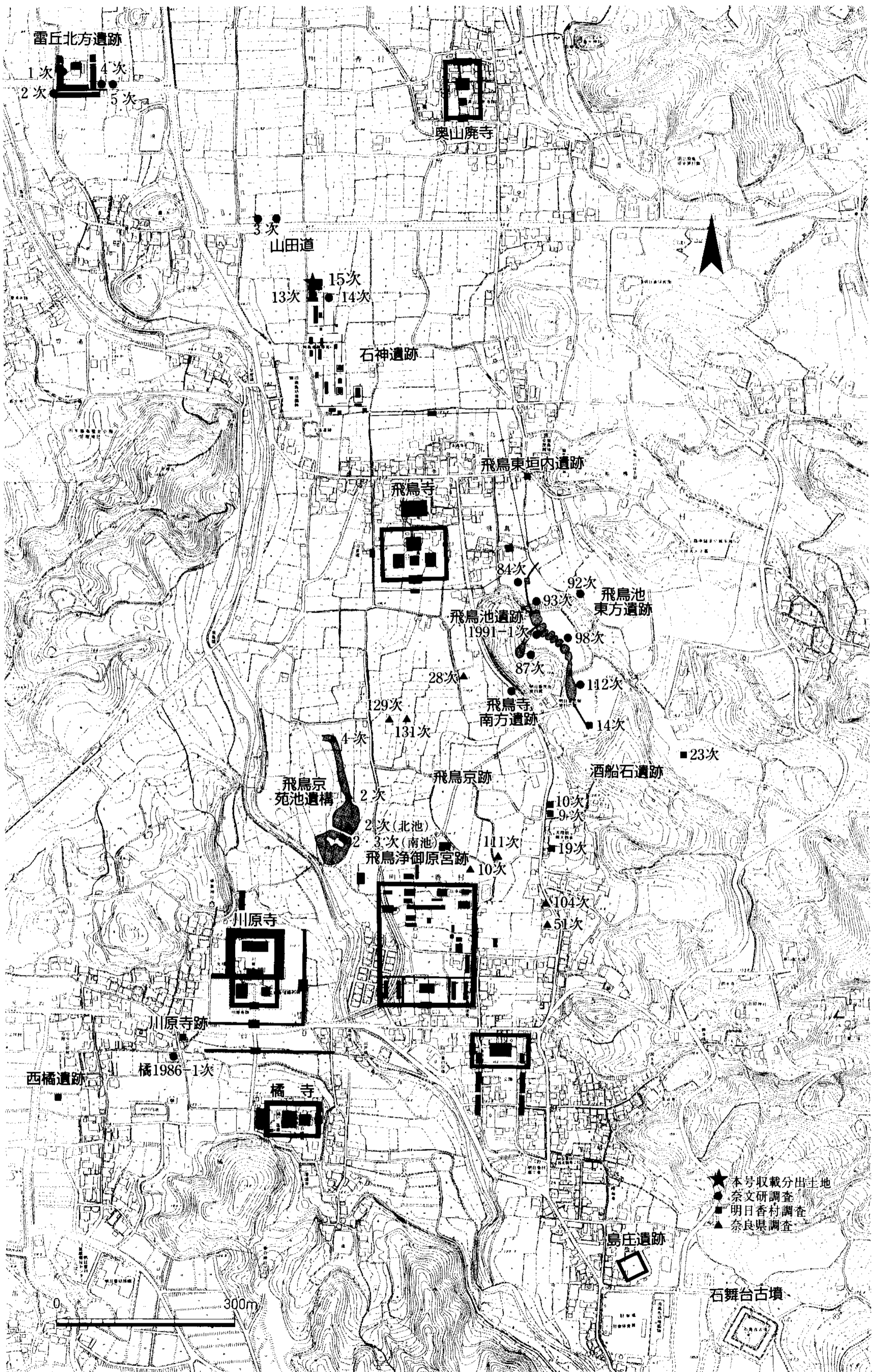
井戸SE110B

391 元  枚  〔植カ〕 條ツ  具  三米  〔十カ〕

(24)・(160)・3 081 FI53 \*16  
上下折レ、左右割レ。







飛鳥地域木簡出土地 1:10000

二〇〇三年十一月十日 印刷  
二〇〇三年十一月二十日 発行

飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(七)

編集・発行

独立行政法人文化財研究所  
奈良文化財研究所

〒六三〇―八五七七

奈良市二条町二丁目九―一

TEL 〇七四二(三四)三九三一

FAX 〇七四二(三〇)六八三〇